埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書

－令和３年度－

２０２２

千葉市教育委員会

例　言

1　千葉市では、市内の開発事業に先立ち、遺跡の内容や性格を把握することを目的とした発掘調査を実施しています。本書は、その成果をまとめた市内遺跡埋蔵文化財調査報告書です。

2　市内遺跡とは、市内に所在する旧石器時代から中世に至る遺物散布地・貝塚・集落跡・古墳・塚・城館跡等を包括したものです。

3　発掘調査は千葉市教育委員会が主体となり、国庫補助金と市費により実施しました。報告書は市費により刊行しています。

4　事業主体及び調査組織は次のとおりです。

教育委員会事務局	教 育 長	磯野　和美
	教育次長	宮本　寿正
生涯学習部	部　　長	佐々木　敏春
文化財課	課　　長	佐久間　仁央
	課長補佐	児玉　隆一
特別史跡推進班	主　　査	森本　剛
	主任主事	須賀　真弓
	主任主事	米倉　貴之
文化財保護班	主　　査	中尾　麻子
	主任主事	佐藤　洋
	主　　事	千葉　南菜子
	主　　事	菊地　彩香
埋蔵文化財調査センター		
	所　　長	西野　雅人
	主　　査	白根　義久
	主任主事	山下　亮介
	主任主事	松田　光太郎
	主任主事	木口　裕史
	会計年度任用職員	難波　美由紀
	会計年度任用職員	戸村　正己
	会計年度任用職員	菅谷　通保
	会計年度任用職員	岸本　高充

5　本書の執筆は、調査内容を調査担当者が、出土遺物については西野雅人、岸本高充が行い、木口裕史が編集しました。

6　出土遺物及び記録類等は千葉市埋蔵文化財調査センターで保管しています。

表1：発掘調査概要一覧

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
1	根崎遺跡	本調査	31千教埋セ第218号	2020年5月11日から 6月1日	44㎡ （1,067㎡）	山下 亮介
		国庫補助	若葉区原町922番24の一部	個人住宅建設	個人	
2	谷原前遺跡	確認調査	2千教埋セ第251号	2020年11月6日から 11月24日	36㎡ （5,445㎡）	山下 亮介
		市単費	若葉区高根町924番1の一部	駐車場及び資材置き場の建設	個人	
3	松原遺跡	確認調査	2千教埋セ第59号	2020年12月17日から 12月24日	81.6㎡ （775㎡）	山下 亮介
		国庫補助	中央区南生実町1048,1050,1051,1052, 1054,1057,1091,1094,1097の各一部	宅地造成	株式会社千匠	
4	松原遺跡	確認調査	2千教埋セ第360号	2021年3月16日から 3月26日	115㎡ （1,239㎡）	山下 亮介
		市単費	中央区南生実町1087	宅地造成	株式会社千匠	
5	築地貝塚	確認調査	2千教埋セ第386号	2021年2月8日から 2月10日	30㎡ （294.83㎡）	松田 光太郎
		市単費	花見川区長作町296番	戸建専用住宅建設および宅地造成	タクトホーム株式会社	
6	西側遺跡	確認調査	2千教埋セ第478号	2021年4月16日から 5月6日	21.35㎡ （200.07㎡）	山下 亮介
		市単費	中央区蘇我一丁目13番9	宅地造成	個人	
7	猪鼻城跡	確認調査	3千教埋セ第122号	2021年5月26日から 6月10日、8月10日から11日	268㎡ （5,445㎡）	木口 裕史
		市単費	中央区亥鼻一丁目64番1,同番5,322の各一部	学校建設	国立大学法人千葉大学	
8	松ケ丘南遺跡	確認調査	3千教埋セ第55号	2021年6月11日から 6月16日	35㎡ （1,297.43㎡）	木口 裕史
		市単費	中央区松ヶ丘町114番1,同番2,128番2	宅地造成	株式会社アイキョーホーム	
9	加曽利貝塚	確認・ 本調査	3千教埋セ第51号	2021年6月3日から 6月7日	12.4㎡ （131㎡）	松田 光太郎
		国庫補助	若葉区桜木三丁目269番17,同番19	個人住宅建設	ケイアイクラフト株式会社	

＊調査面積の下段（ ）内は事業面積

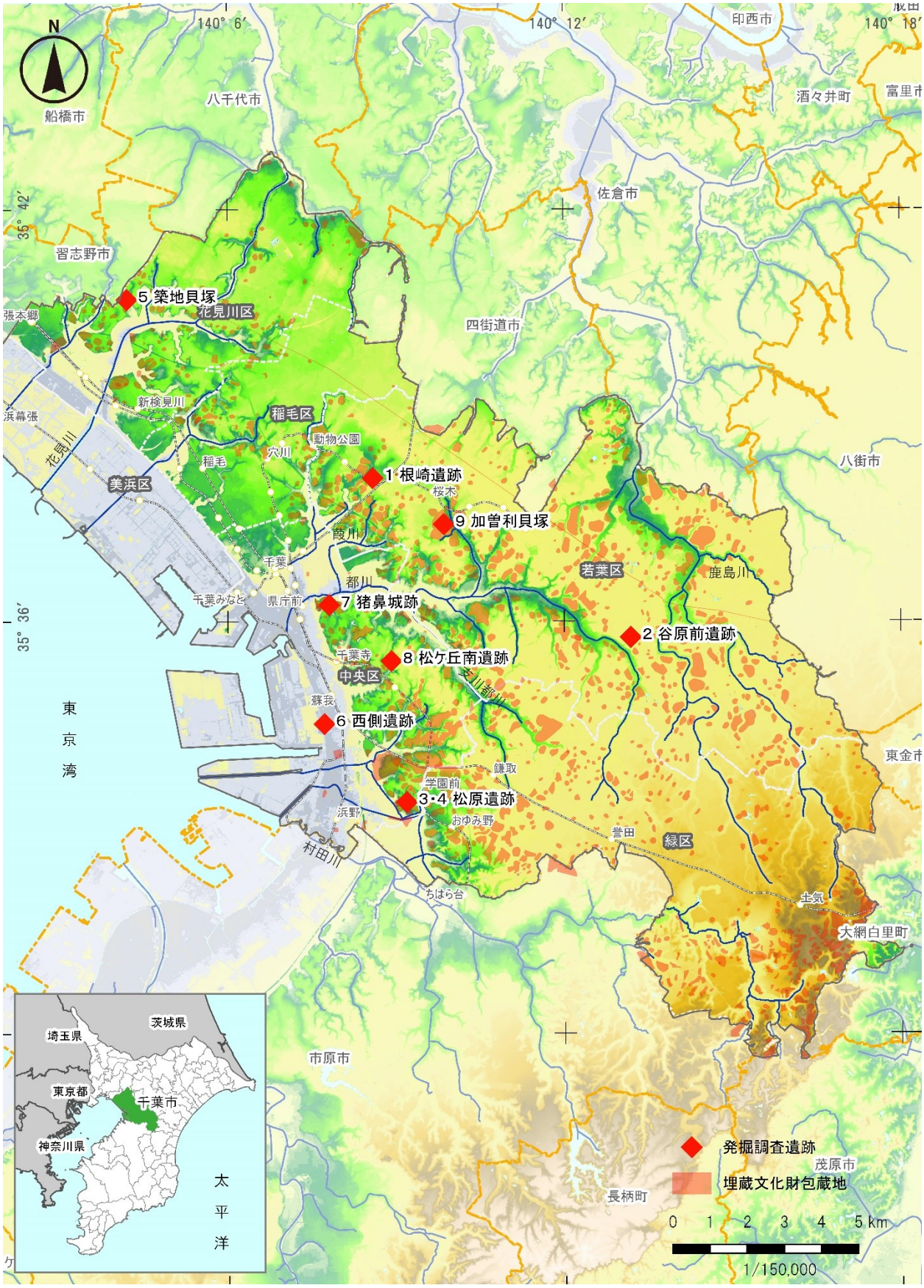


図1：発掘調査遺跡位置図

凡　　例

1　本書に掲載している地図で使用した背景図の出典は以下の通りです。

発掘調査遺跡位置図 1/150,000	国土地理院基盤地図情報 10m メッシュより生成
位置図　1/10,000	国土地理院発行 2.5 万分 1 地形図
位置図　1/2,500	千葉市基本図（デジタルデータ）

2　地図・挿図の座標値は公共座標第IX系（世界測地系）を基本としメートル表記としましたが、調査遺跡位置図は巻末の報告書抄録との整合から地理学座標系（世界測地系）とし、経緯度で表示しました。

3　本書に掲載している挿図の縮尺は以下の通りです。

トレンチ・遺構配置図	1/400、1/500、1/1,000、1/2,000
調査区全体図	1/150
遺構図・セクション図	1/40、1/60、1/100、1/200
遺物実測図	1/1、1/2、1/3、1/4

4　調査は基本的に重機掘削が可能なところまでは重機を使用し、トレンチの壁面や包含層の掘削、遺構の検出などは人力掘削で行いました。

5　土層説明に記号を示している場合は、農林水産省監修『新版 標準土色帖』を使用しています。

目　　次

例言
　表 1:発掘調査概要一覧
　図 1:発掘調査遺跡位置図
凡例
目次
1　根崎遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2　谷原前遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
3　松原遺跡（国庫補助）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
4　松原遺跡（市単費）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
5　築地貝塚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
6　西側遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
7　猪鼻城跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
8　松ケ丘南遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
9　加曽利貝塚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
巻末　報告書抄録

1　根崎遺跡（ねざきいせき）

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
1	根崎遺跡	本調査	31千教埋セ第218号	2020年5月11日から6月1日	44㎡（1,067㎡）	山下 亮介
		国庫補助	若葉区原町922番24の一部	個人住宅建設	個人	

＊調査面積の下段（ ）内は事業面積

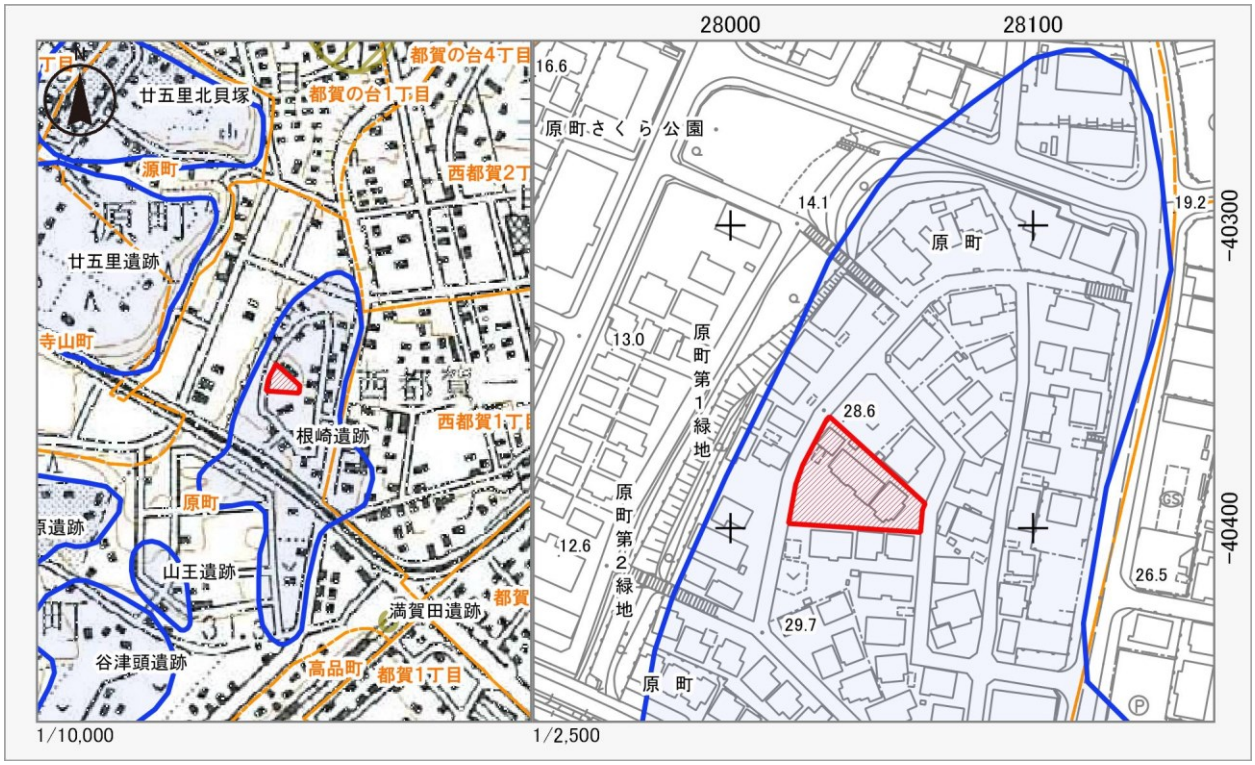


図 2：根崎遺跡位置図

（1）調査に至る経緯

令和元年 8 月 7 日付けで、個人事業者より、集合住宅および個人住宅建設のため「埋蔵文化財発掘の届出について」（31 千教埋セ第 218 号）が提出された。試掘の結果、竪穴住居跡が検出されたため、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知。

その後、令和元年 11 月 1 日付けで、施工者である積水ハウス株式会社千葉南支店からの依頼で、同年 11 月 8 日～11 月 15 日の日程で確認調査を実施した。

その結果、奈良・平安時代竪穴住居跡などが検出されたため、対象面積のうち

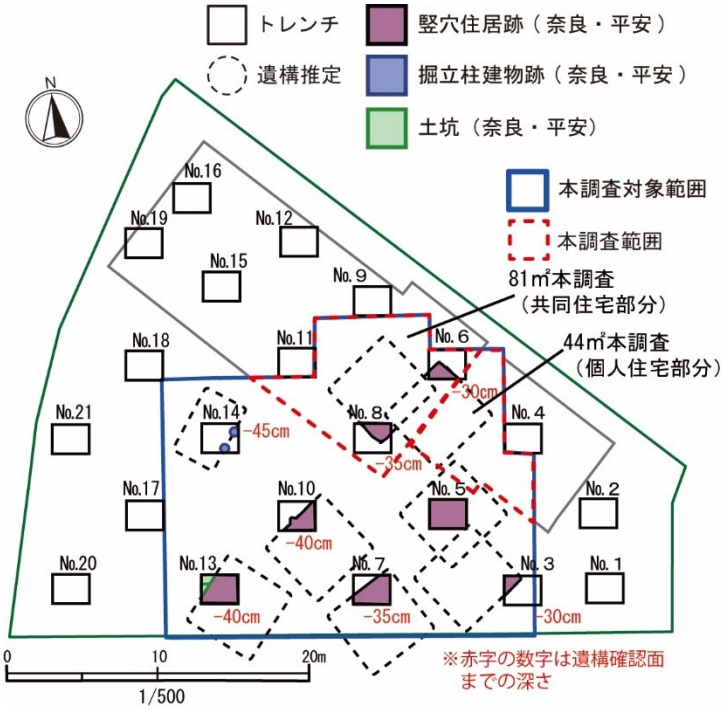


図 3：根崎遺跡遺構配置図

449 ㎡を本調査対象範囲として継続協議が必要の旨を施行者に通知した。

再度協議の結果、本調査対象範囲のうち建物を建設しない南側の 324 ㎡は保護層を確保したうえで遺跡を保存し、集合住宅及び個人住宅建設部分の 125 ㎡については土木工事により埋蔵文化財に影響が生じるため、記録保存の本調査を実施することで協議は整った。

本調査実施にあたっては、集合住宅建設部分の 81 ㎡は、公益財団法人千葉市教育振興財団が、個人住宅建設部分の 44 ㎡は、千葉市埋蔵文化財調査センターが実施することとなった。

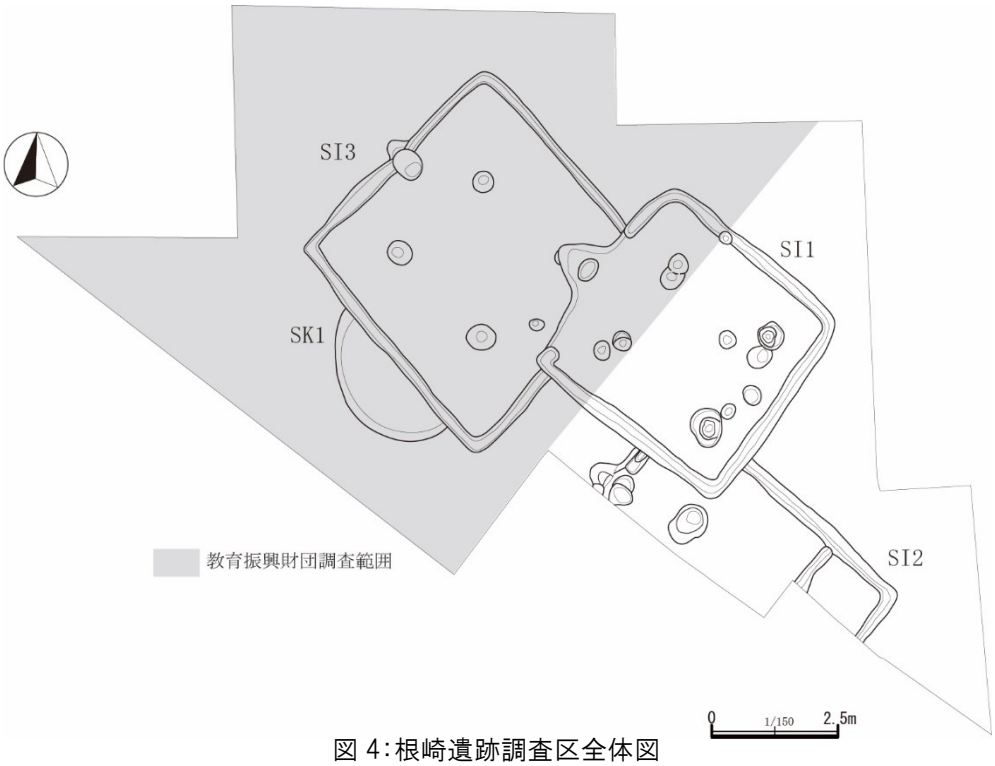


図 4:根崎遺跡調査区全体図

（2）遺跡の立地と過去の調査

根崎遺跡は、都川に河口付近で合流する葭川支流の台地上、標高約 30m を測る台地上に立地している。本遺跡を含む遺跡群は原町遺跡群と呼ばれ、周辺にも多くの遺跡が存在する。縄文時代の遺跡としては山王遺跡や原遺跡で早期～前期後半の遺構・遺物が検出されている。台畑遺跡では中期前葉阿玉台式期の集落跡が調査され、まとまった遺物の出土がある。

根崎遺跡の発掘調査は、今回が 7 回目である。昭和 58・59 年度に千葉都市モノレール建設に伴い調査が行われ、その後土地区画整理事業などに伴い調査が行われてきた。過去の調査成果を見ると、根崎遺跡で土地利用の痕跡が認められるのは縄文早期前葉からであり、撚糸文系の土器が出土し、その後は前期後葉の土器なども出土している。

遺構の形成が活発になるのは中期前葉の阿玉台式期であり、阿玉台Ⅰa～Ⅰb 式期の住居や小竪穴がまとまって検出された。中期の大規模貝塚が形成される直前段階の集落の事例として注目される。過去の調査でも今回の調査区近辺から住居及び小竪穴が検出され、同一の遺構群と考えられる。阿玉台式期以降は、後期の土器が少量検出されるにとどまっている。

その後は県内でも調査例が少ない弥生前期後葉と考えられる住居跡が調査されているが、ごく小規模な集落と考えられる。以降、空白期間が続くが古墳時代中期には小規模な集落が検出されている。

根崎遺跡において最も土地利用が活発化するのは古墳時代終末期以降であり、奈良・平安時代にかけて大規模な集落跡が調査されている。中世以降は再び土地利用の痕跡は明確ではないが、近世と考えられる溝状遺構などが検出されている。

（3）調査成果

縄文時代の遺構としては財団調査範囲から阿玉台式期の小竪穴（SK1）が１基検出されている。遺構はこの１基のみであるが、調査区内及び他時期の遺構から縄文時代の土器・土製品・石器が出土している。遺構外出土の土器も阿玉台式が最も多いが、縄文早期・前期後葉～中期初頭・加曽利ＥⅡ式・加曽利Ｂ３式・安行式期（後期）までの土器が出土している。また、黒曜石の剥片類が各遺構から一定量出土している。

財団調査範囲にも掛かっているが、奈良時代の竪穴住居跡２軒が検出された。本遺構は財団により西側部分が調査されているが、本調査と合わせて報告する。遺物の総数は表２を参照。

第１号竪穴住居跡（SI1）

第２・３号竪穴住居跡と重複しているが、本遺構が最も新しい。平面形態は方形で、長軸 5.48m、短軸 4.58m、深さ 0.63m。主軸方位はN-57°-W。底面は平坦であり、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、中央部分が硬化していた。

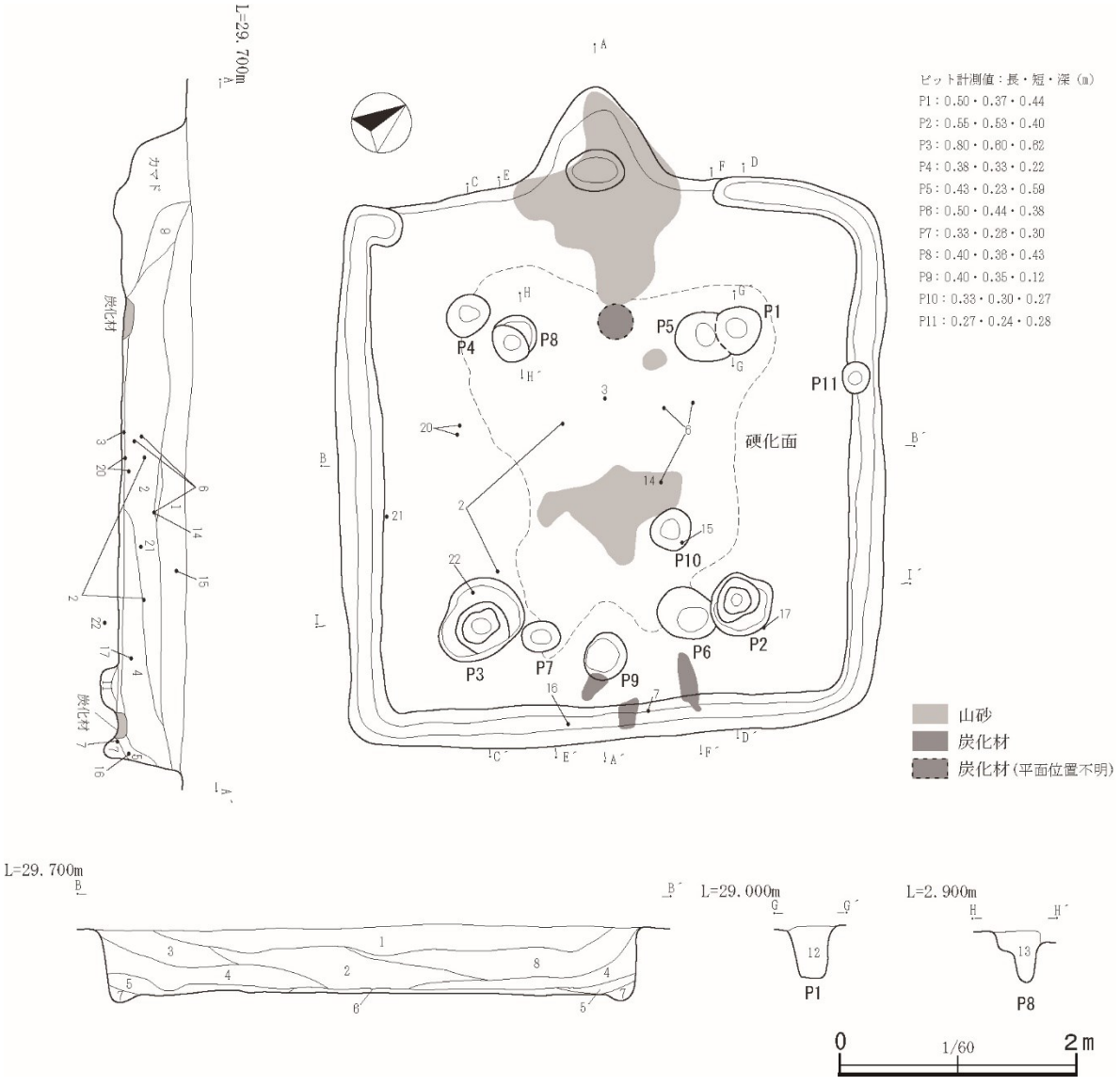
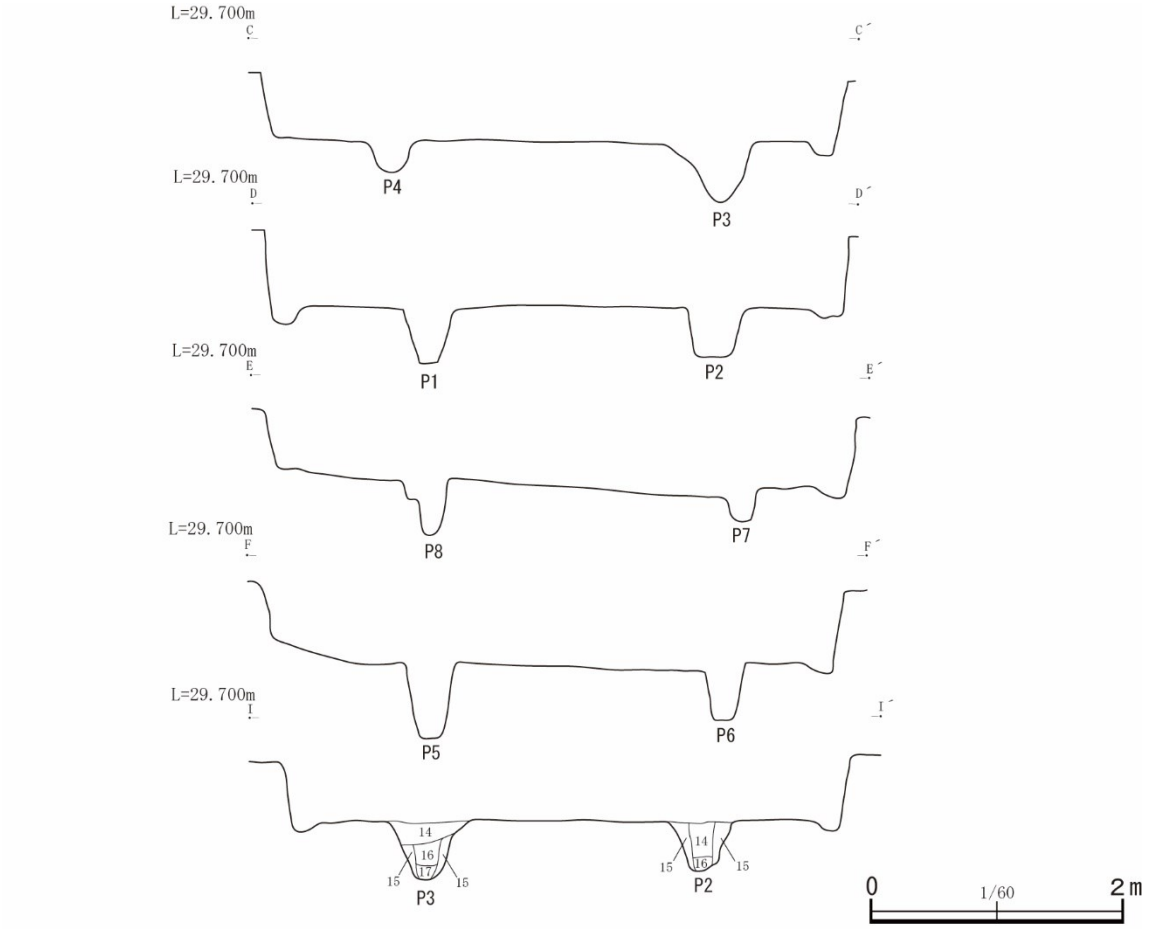
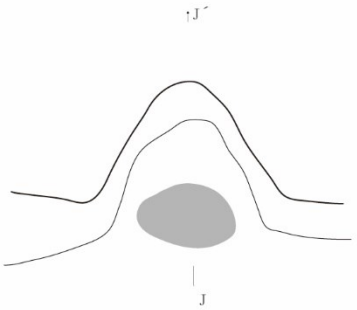


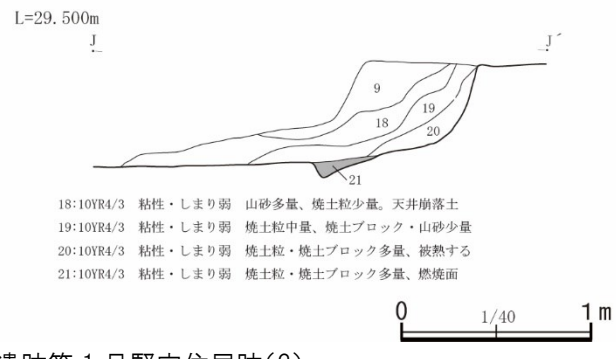
図 5：根崎遺跡第 1 号竪穴住居跡（1）

柱穴が 10 基検出され、Ｐ５～８が拡張前の主柱穴、Ｐ１～４が拡張後の主柱穴と考えられ、建て替えに伴い拡張が行われたものと考えられる。それ以外に補助的な柱穴の可能性がある柱穴が検出された。壁溝は全周せず、幅 0.41m、深さ 0.06m を測る。カマドが西壁から検出され、天井やソデは残存しておらず、カマド前に流出していた。



1:7.5YR4/3　粘性・しまり弱　ローム粒・焼土粒少量
2:5YR3/4　粘性・しまり弱　ローム粒・焼土粒中量、焼土ブロック少量
3:7.5YR3/3　粘性・しまり強　ローム粒子・ロームブロック少量
4:7.5YR3/4　粘性・しまり弱　ローム粒子中量、ロームブロック・焼土粒。焼土ブロック少量
5:7.5YR3/4　粘性・しまり弱　ローム粒・ロームブロック少量
6:7.5YR3/2　粘性・しまり弱　炭化物・焼土粒・山砂中量、ローム粒少量
7:7.5YR4/6　粘性・しまり弱　ローム粒多量、ロームブロック中量、焼土粒・山砂少量
8:7.5YR3/3　粘性・しまり強　ローム粒中量、ロームブロック・焼土粒少量
9:10YR4/3　粘性・しまり弱　ローム粒・山砂中量、炭化物少量
10:7.5YR3/3 粘性・しまり弱　ローム粒・焼土粒・山砂少量
11:7.5YR4/4 粘性・しまり弱　ローム粒子多量、ロームブロック少量
12:10YR4/3　粘性・しまり弱　ローム粒多量、ロームブロック・焼土粒少量
13:10YR4/3　粘性・しまりやや弱　ロームブロック多量。人為的な埋土
14:7.5YR3/3　粘性・しまり強　ローム粒少量
15:7.5YR4/6　粘性・しまり強　ローム粒多量、ロームブロック中量
16:7.5YR4/3　粘性・しまり弱　ローム粒多量、ロームブロック少量
17:7.5YR4/4　粘性・しまり強　ローム粒多量





18:10YR4/3　粘性・しまり弱　山砂多量、焼土粒少量。天井崩落土
19:10YR4/3　粘性・しまり弱　焼土粒中量、焼土ブロック・山砂少量
20:10YR4/3　粘性・しまり弱　焼土粒・焼土ブロック多量、被熱する
21:10YR4/3　粘性・しまり弱　焼土粒・焼土ブロック多量、燃焼面

図 6:根崎遺跡第 1 号竪穴住居跡(2)

覆土はロームブロックやローム粒、焼土粒が多量に混じり均質的であることから、人為的な埋戻しと考えられる。拡張前の柱穴であるＰ５～８の覆土はロームブロックが多量に混入し、埋め戻したと考えられる。

覆土中及び床面からの遺物の出土は比較的多いが、小破片が多い。土器の個体数は多いものの小破片が大多数を占め、接合率は低く、破損したものを埋め戻す際に投棄したものと考えられる。床面近くから鉄製穂摘具・不明鉄製品、住居跡掘方から石製紡錘車が出土している。カマド内の土を持ち帰り選別したところ、イネ３点を含む炭化種子６点が検出された。

時期は土師器坏および須恵器坏の特徴から奈良時代前半。

調査区全景検出状況

第１号竪穴住居跡全景

第１号竪穴住居跡内須恵器出土状況

鉄製穂摘具

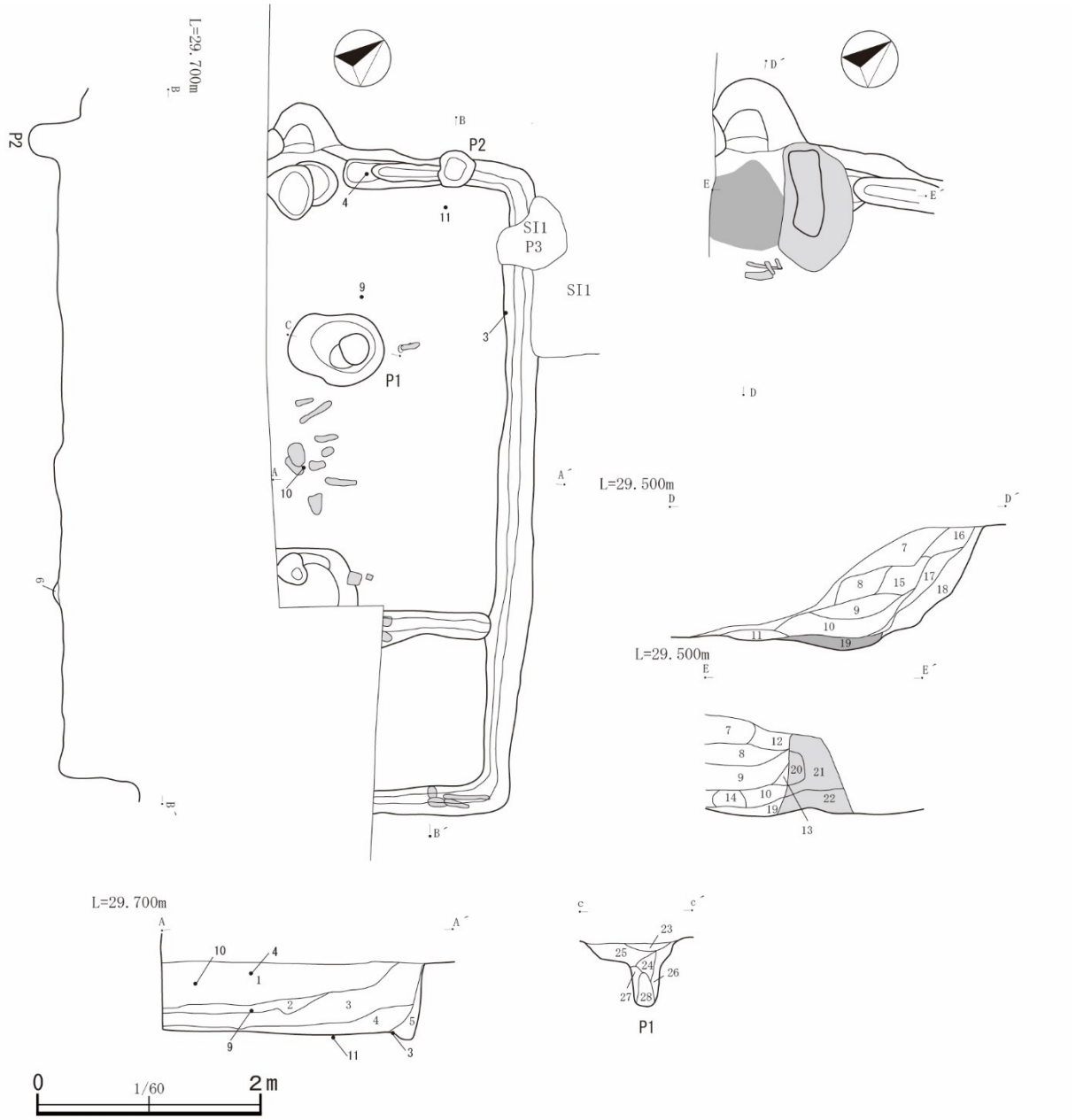
第２号竪穴住居跡（SI2）

第１号竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。一部調査区外に掛かる。平面形態は方形と考えられる。長軸 6.32m、短軸 4.26m（推定）、深さ 0.66m。主軸方位は N-50° -W。底面は平坦であり、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、中央部分が硬化していた。柱穴が２基検出され、Ｐ１が主柱穴、Ｐ２は補助的な柱穴と考えられる。壁溝は調査範囲内では全周し、幅 0.31m、深さ 0.1m を測る。カマドが西壁から検出され、ソデが一部残存していた。覆土はロームブロックやローム粒、焼土粒が多量に混じることから、人為的な埋戻しと考えられる。また、床面から一部焼土や炭化材がまとまって出土している。焼失住居とは言えないが、廃絶後に一部の部材が焼却された可能性がある。

覆土中及び床面からの遺物の出土は少なく、小破片が多い。坏（図 10 の３）、青銅製の刀装具（図 10 の 11）が床面から出土している。土製品（図 10 の９）は被熱の上、発泡しており羽口片の可能性がある。また、カマド内の土を持ち帰り選別したところ、イネ２点を含む炭化種子３点、カヤと思

われる炭化材多数、焼成粘土塊が多数検出された。また、炭化材を選別したところ、炭化種子２点が検出され、覆土中から炭化したモモ核２点が検出されている。

時期は土師器坏の特徴から奈良時代前半。



1:7.5YR3/4（暗褐色）ローム粒子・ロームブロック（0.5cm）をまばらに含む　よくしまっている
2:7.5YR4/3（暗褐色）ローム粒子をまばらに含み、ロームブロック（1cm）をまばらに含む　よくしまっている
3:7.5YR4/4（褐色）ローム粒子をやや多く含み、ロームブロック（1～3cm）を含む　しまっている
4:7.5YR3/3（褐色）ローム粒子をやや多く含み、ロームブロック（1cm）を含む
焼土粒子・炭化物粒子をまばらに含む　ややしまる
5:7.5YR3/4（暗褐色）ローム粒子を含む　ややしまる
6:7.5YR3/3　暗褐・ローム粒子、 ロームブロック（1～3cm）を少し含む　ややしまる
7:7.5YR5/4　にぶい褐　砂を多く含みロームブロック（0.5～1cm）をまばらに含む　しまりなくやわらか
8:5YR4/4　にぶい赤褐　砂　焼土砂粒子を含む焼土ブロック（3cm）を少し含む　やわらか
9:2.5YR3/4　暗赤褐　砂　焼土砂・焼土ブロック（5cm）を含む　やわらか
10:2.5YR3/6　暗赤褐　焼砂 砂を主体にロームブロック（1cm）焼土ブロック（1～3cm）をまばらに含む やわらか
11:5.5YR3/3　暗赤褐　砂・炭化物粒子を多く含む　ややしまる
12:6.5YR3/3　暗赤褐　砂を多く含み、ロームブロック（0.5cm）まばらに含む
13:2.5YR3/4　暗赤褐　砂・焼砂を含む　やわらか
14:2.5YR4/6　赤褐　焼砂ブロック
15:2.5YR3/6　暗赤褐　砂　焼砂を含む
16:7.5YR4/4　褐　砂を主体に焼土粒子を少し含む　ややしまる
17:2.5YR4/4　にぶい赤褐　砂・焼砂を含む　ややしまる
18:2.5YR3/6　暗赤褐　砂　焼砂主体　やややわらか
19:2.5YR4/6　赤褐　焼砂主体、ロームブロック（0.5cm）焼土ブロック（0.5cm）を含む
20:2.5YR4/8 赤褐　焼砂（内壁）ややしまる
21:7.5YR4/4　褐　砂主体（ソデ）
22:7.5YR4/3　暗褐　砂主体で、焼砂、ロームブロック（1～5cm）を含む　よくしまる
23:7.5YR5/4　にぶい褐　砂主体
24:7.5YR3/3　暗褐　ローム粒子を少し含む　やわらか
25:7.5YR3/4　暗褐　ローム粒子、ロームブロック（1～3cm）をまばらに含む
26:7.5YR4/6　褐　ローム粒子主体　ややしまる
27:7.5YR5/6　明褐　ローム粒子・ロームブロック（3～5cm）主体ややしまる
28:7.5YR4/4　褐　ローム粒子を多く含む　やわらか

図 7:根崎遺跡第 2 号竪穴住居跡

第 2 号竪穴住居跡全景

第 2 号竪穴住居跡セクション

カマド跡セクション

床面炭化物検出状況

（4）出土遺物

縄文土器 66 点、土師器 1449 点、須恵器 125 点などが出土している。詳細は表 2 を参照。

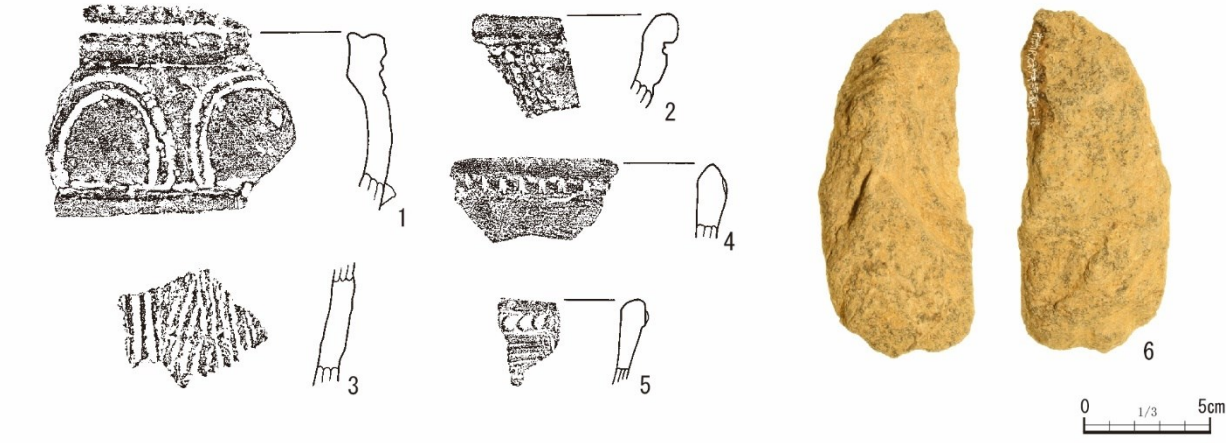


図 8:根崎遺跡遺構外出土遺物

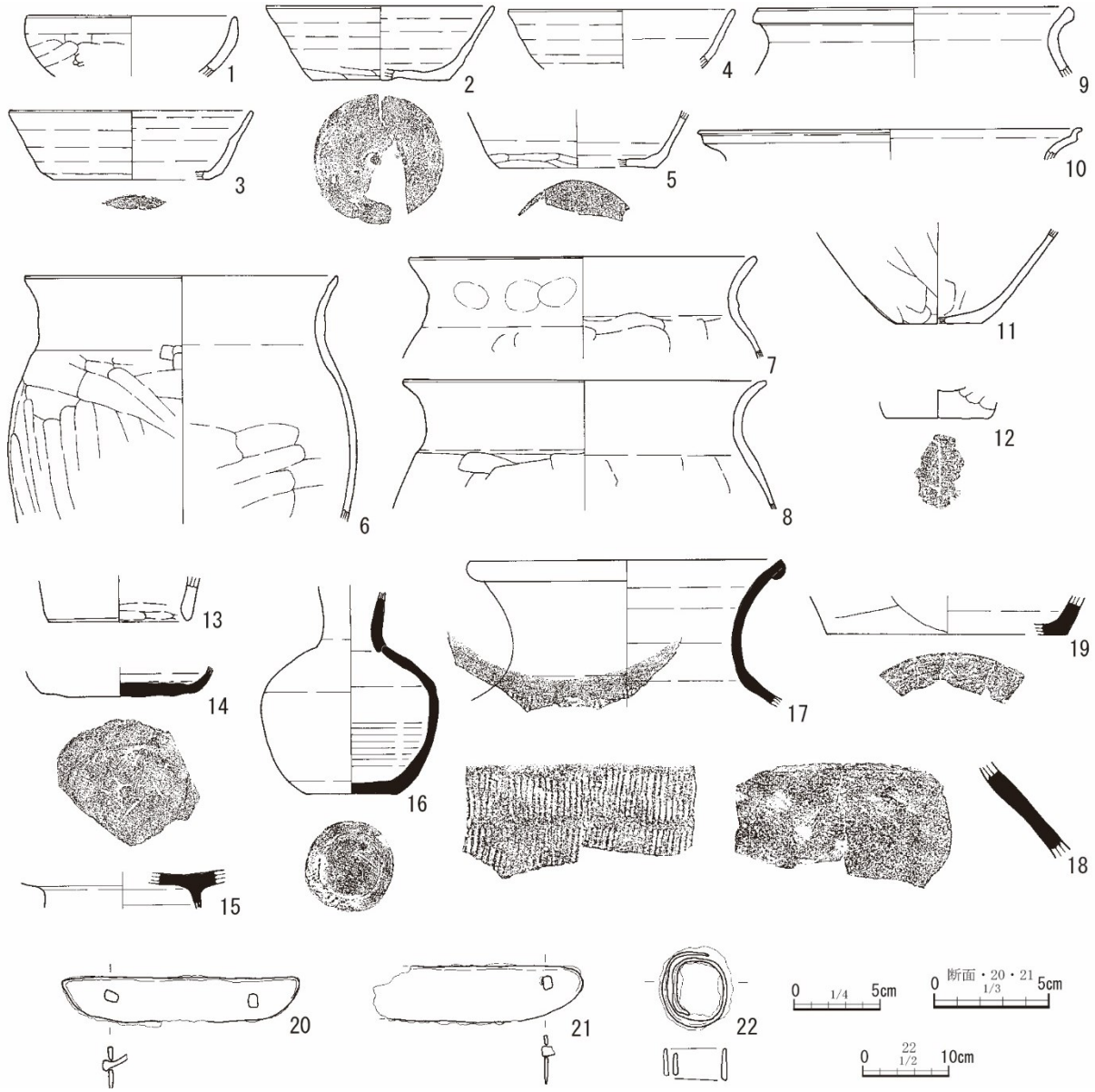


図 9:根崎遺跡第 1 号竪穴住居跡出土遺物

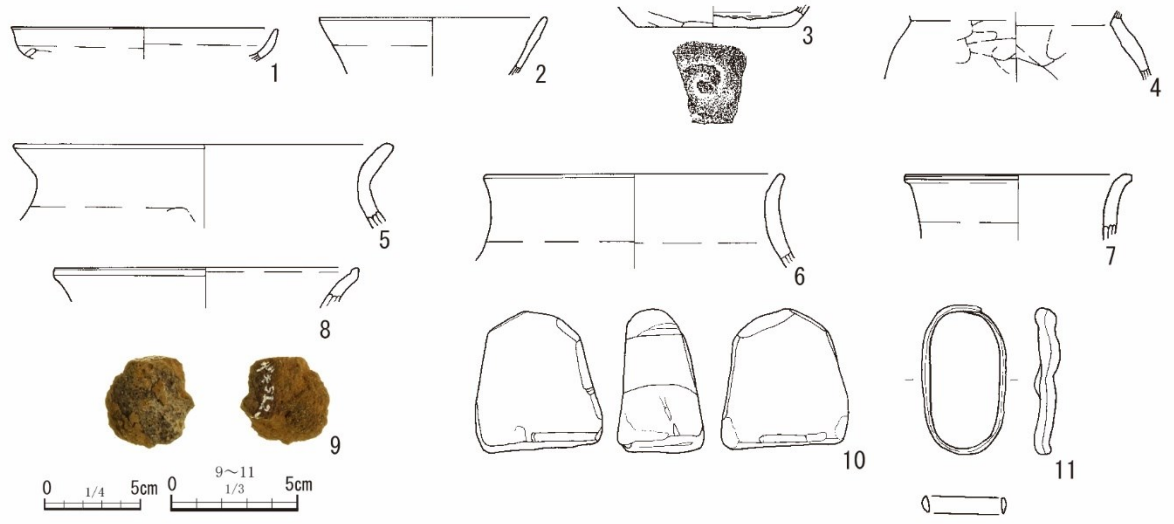


図 10:根崎遺跡第 2 号竪穴住居跡出土遺物

表 2:根崎遺跡出土遺物集計表

遺構名				建物跡				合計
				SI1		SI2		
残存				個体	破片	個体	破片	
縄文	土器	条痕文系	深鉢		7		5	12
		前期後葉～中期初頭			1			1
		阿玉台（角押文・有節沈線）			6		1	7
		阿玉台（隆帯・ヒダ状文）			13			13
		阿玉台（沈線）			3			3
		阿玉台（無文）			2			2
		加曽利EⅡ			1			1
		加曽利B3			1			1
		安行式（後期）			4			4
		後期					1	1
		無文			11			11
		縄文のみ			7		1	8
		沈線のみ			2			2
	剥片		黒曜石	8		5		13
			チャート	2				2
			不明	1				1
縄文時代　計				11	58	5	8	82

遺構名			建物跡				合計
			SI1		SI2		
残存			個体	破片	個体	破片	
奈良	土師器	坏	1	127		6	134
		甕		38			38
		甑		2			2
		甕・甑		1160		115	1275
	須恵器	坏身	1	76			77
		坏蓋		8			8
		高台付坏	1	1			2
		壺・瓶類	1	4		1	6
		甕		32			32
	土製品	支脚	1				1
	石製品	紡錘車	1				1
		砥石			1		1
	金属製品	鉄製穂摘具	2				2
		不明鉄製品	1				1
		青銅製刀装具			1		1
	焼成粘土塊		34		41		75
軽石			1				1
礫			53		3		56
奈良時代　計			97	1448	46	122	1713
時期不明土器				253		6	259
総計			108	1759	51	136	2054

＊第1号竪穴住居跡（SI1）の遺物点数は財団調査分を含んだ数。

表 3:根崎遺跡遺物観察表

縄文時代遺構外						
1	縄文土器 深鉢	－ － 〈6.9〉	口縁部片。内面ナデ。口唇部押引文。外面は口唇直下を押引文で区画。下部は隆帯で区画し、隆帯に沿わせて押引文を施文。区画内は2列の押引文で半円を施文。阿玉台式前半。調査区出土。	礫・金雲母多量。	外面：5YR5/6 内面：5YR5/6	良好
2	縄文土器 深鉢	－ － 〈3.9〉	口縁部片。内面ナデ。口唇直下は押引文で区画。下部は斜位の押引文が3列確認される。阿玉台式前半。SI2出土。	礫・金雲母中量。	外面：7.5YR6/4 内面：7.5YR5/4	良好
3	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.8〉	胴部片。内面ナデ。外面磨消縄文（撚糸文L）。加曽利EⅡ式。SI1出土。	礫・白色粒中量。	外面：2.5YR5/6 内面：7.5YR5/2	良好
4	縄文土器 深鉢	－ － 〈3.0〉	口縁部片。内面ナデ。外面は口唇直下に刻み。安行式（後期）。SI1出土。	礫・石英中量。	外面：5YR5/6 内面：5YR5/6	良好
5	縄文土器 深鉢	－ － 〈3.3〉	口縁部片。内面ヘラナデ。外面は口唇直下に隆帯を施文し、押捺する。下部は条線か。安行式（後期）。SI1出土。	石英・白色粒微量。	外面：10YR6/4 内面：7.5YR5/4	良好
6	石器 打製石斧	完形。長さ13.1cm、幅5.7cm、厚さ2.3cm、重量199.4g。調査区出土。				
第1号竪穴住居跡						
1	土師器 坏	(12.0) － 〈3.5〉	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ。	石英・白色粒微量。	外面：10YR5/2 内面：10YR4/1	良好
2	土師器 坏	(13.0) (7.8) 4.3	2/3残存。内外面ロクロナデ。外面下端及び底部手持ちヘラケズリ。	礫微量、石英・白色粒中量。	外面：5Y4/1 内面：5Y4/1	良好
3	土師器 坏	(14.0) (9.0) 3.9	口縁部～底部片。内外面ロクロナデ。外面下端手持ちヘラケズリ。底部回転ヘラケズリ。	礫微量、石英・白色粒中量。	外面：10YR5/4 内面：10YR5/4	良好
4	土師器 坏	(13.0) － 〈3.4〉	口縁部片。内外面ロクロナデ。	石英・白色粒少量。	外面：10Y2/1 内面：10Y2/1	良好
5	土師器 坏	－ (9.0) 〈3.3〉	底部片。内外面ロクロナデ。外面下端及び底部手持ちヘラケズリ。	石英・白色粒少量。	外面：5Y2/2 内面：5Y2/2	良好
6	土師器 甕	(18.0) － 〈14.2〉	口縁部～胴部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ。外面に一部炭化物付着。	赤褐色粒・礫・石英・白色粒中量。	外面：7.5YR6/6 内面：7.5YR6/4	良好
7	土師器 甕	(20.0) － 〈5.8〉	口縁部1/2残存。内面ヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面に指頭痕残る。外面ヘラケズリ。	赤褐色粒・礫・石英・白色粒中量。	外面：5YR6/6 内面：5YR6/6	良好

8	土師器 甕	(21.0) － 〈7.4〉	口縁部～胴部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ。	赤褐色粒・礫・石英・白色粒中量。	外面：5YR5/4 内面：5YR5/4	良好
9	土師器 甕	(18.0) － 〈4.1〉	口縁部片。内外面共にヨコナデ。	石英・白色粒微量。	外面：5YR4/6 内面：5YR3/4	良好
10	土師器 甕	(22.0) － 〈1.8〉	口縁部片。内外面共にヨコナデ。	石英・白色粒中量。	外面：7.5YR3/4 内面：7.5YR3/4	良好
11	土師器 甕	－ (5.0) 〈5.4〉	底部片。内面ヘラナデ及びナデ。外面及び底部ヘラケズリ。	石英・白色粒中量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR3/1	良好
12	土師器 甕	－ (6.0) 〈1.6〉	底部片。内面ナデ。底部木葉痕。	石英・白色粒少量。	外面：7.5YR4/3 内面：7.5YR4/2	良好
13	土師器 甑	－ (8.0) 〈2.6〉	底部片。内外面ナデ。下端ヘラケズリ。	石英・白色粒微量。	外面：10YR6/3 内面：10YR5/2	良好
14	須恵器 坏身	－ (9.0) 〈1.7〉	体部下端～底部4/5残存。内外面共にロクロナデ。底部手持ちヘラケズリ。	礫微量、石英・白色粒中量。	外面：5YR5/1 内面：5YR5/1	良好
15	須恵器 高台付坏	－ (9.0) 〈2.1〉	底部片。内外面ロクロナデ。外面下端及び底部回転ヘラケズリ。	石英・白色粒少量。	外面：10YR6/3 内面：10YR6/2	良好
16	須恵器 壺・瓶類	－ 5.2 〈12.0〉	2/3残存。内外面ロクロナデ。体部と頸部の接合痕が明瞭に確認できる。底部ナデ。外面及び頸部内面、底部内面に自然釉付着。	礫・石英・白色粒中量。	外面：10YR4/1 内面：10YR5/1	良好
17	須恵器 甕	(18.0) － 〈8.5〉	口縁部片。内面指頭痕残る。口縁部内外面ヨコナデ。外面平行タタキ。複合口縁。	石英・白色粒少量。	外面：10YR6/3 内面：10YR5/1	良好
18	須恵器 甕	－ － 〈4.5〉	胴部片。内面指頭痕残る。外面平行タタキ。	礫微量、石英・白色粒少量。	外面：10YR6/4 内面：10YR5/3	良好
19	須恵器 甕	－ (14.0) 〈2.2〉	底部片。内面ロクロナデ。外面及び底部ヘラケズリ。	石英・白色粒少量。	外面：10YR4/2 内面：10YR4/2	良好
20	鉄製品 穂摘具	完形。長さ9.9cm、幅2.0cm、厚さ0.4cm、重量16.3g。裏面には全体的に木質が付着する。釘が左右ともに残存している。一部刃部を欠損する。				
21	鉄製品 穂摘具	2/3残存。長さ8.9cm、幅2.6cm、厚さ0.3cm、重量16.0g。裏面には一部木質が付着する。右側の釘が残存する。				
22	鉄製品 不明	完形。長さ2.3cm、幅2.1cm、厚さ0.1cm、重量4.2g。薄く細長い鉄板を曲げて渦巻き状とする。何らかの工具の絞具の可能性が高い。				
第2号竪穴住居跡						
1	土師器 坏	(14.0) － 〈1.7〉	口縁部片。内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。	白色粒微量。	外面：10YR5/2 内面：10YR5/2	良好
2	土師器 坏	(12.0) － 〈3.0〉	口縁部片。内外面ロクロナデ。3と同一個体。	石英中量、白色粒多量。	外面：2.5Y3/1 内面：2.5Y3/1	良好
3	土師器 坏	－ (8.0) 〈1.2〉	底部片。内外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。2と同一個体。	石英中量、白色粒多量。	外面：2.5Y3/1 内面：2.5Y3/1	良好
4	土師器 鉢	－ － 〈3.7〉	頸部片。内面ヘラナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。	石英・白色粒少量。	外面：7.5YR6/4 内面：7.5YR4/2	良好
5	土師器 甕	(20.0) － 〈4.3〉	口縁部片。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。	白色粒少量、石英中量。	外面：7.5YR6/6 内面：7.5YR6/6	良好
6	土師器 甕	(15.8) － 〈4.9〉	口縁部片。口縁部内外面ヨコナデ。	礫・白色粒少量、石英中量。	外面：5YR5/3 内面：5YR5/3	良好
7	土師器 甕	(12.0) － 〈3.4〉	口縁部片。口縁部内外面ヨコナデ。	白色粒・石英微量。	外面：10YR2/1 内面：10YR2/1	良好
8	土師器 甕	(16.0) － 〈2.1〉	口縁部片。口縁部内外面ヨコナデ。	白色粒・石英微量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR5/4	良好
9	土製品 羽口	破片。長さ〈2.6〉cm、幅〈2.4〉cm、厚さ2.2cm、重量10.1g。全体的に被熱し、発泡している。		白色粒中量。	外面：10YR5/3 内面：10YR5/3	良好
10	石製品 砥石	完形。長さ5.6cm、幅5.0cm、厚さ3.4cm、重量113.1g。全体的に使い込まれ、一部に金属器による使用痕が明瞭に観察される。				
11	青銅製品 刀装具	完形。長さ3.8cm、幅2.2cm、厚さ0.5cm、重量2.6g。縁金具か。楕円形を呈し、各辺の中央部が屈曲。蛍光X線分析の結果、銀と水銀が検出されたことから、銀鍍金が行われた可能性が高い。上端は接合部が明瞭に観察される。				

2　谷原前遺跡（たにはらまえいせき）

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
2	谷原前遺跡	確認調査	2千教埋セ第251号	2020年11月6日から11月24日	36㎡ (5,445㎡)	山下 亮介
		市単費	若葉区高根町924番1の一部	駐車場及び資材置き場の建設	個人	

＊調査面積の下段( )内は事業面積

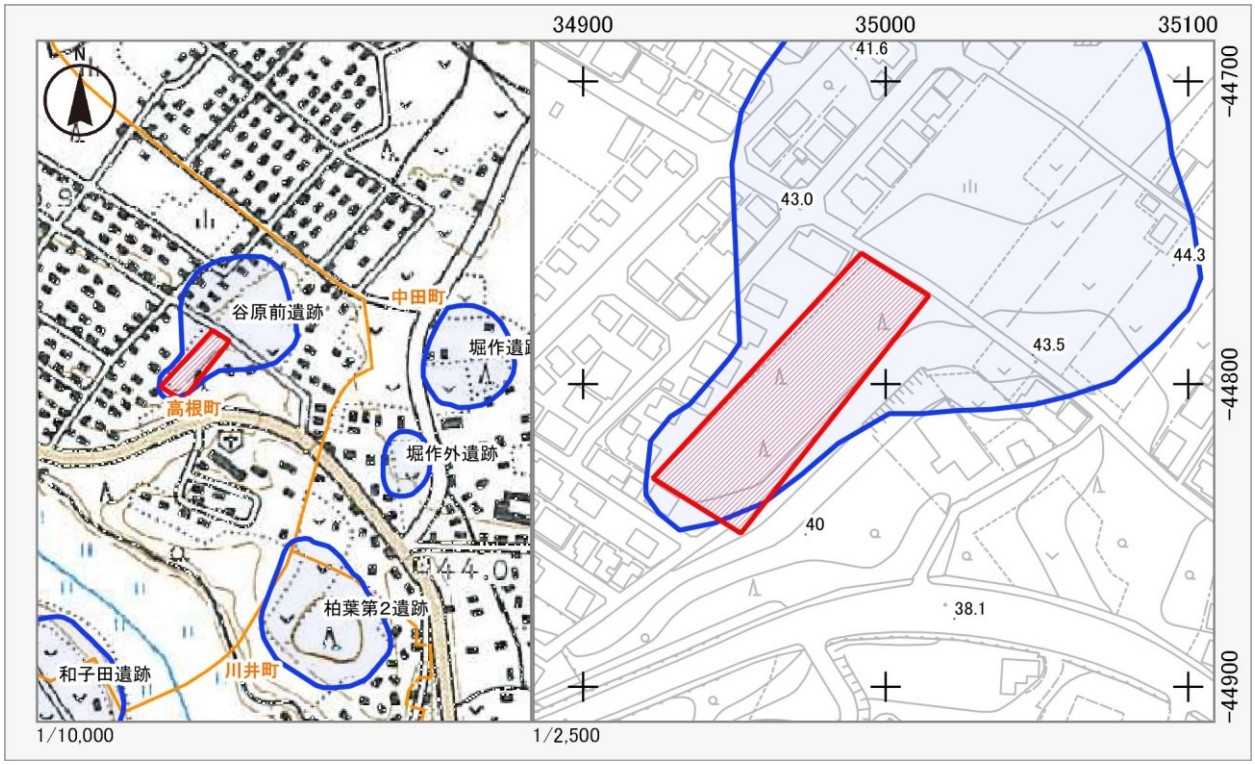


図 11：谷原前遺跡位置図

（1） 調査に至る経緯

令和２年９月４日付けで個人から、谷原前遺跡内で資材置き場の建設に伴う文化財保護法第 93 条に基づく届出が提出された。試掘調査を実施した結果、縄文時代竪穴住居跡を確認したため、工事着手前の「発掘調査」指示（2 千教埋セ第 251 号）を通知した。その後、確認調査を実施することで協議が整い令和２年９月２３日付けで「埋蔵文化財発掘調査依頼書」を受けて市教育委員会が調査を実施した。

（2）調査概要

対象地の北東から南西方向に長い方形の地形に合わせて 10ｍグリッドを任意に設定し、2ｍ×2.5ｍのトレンチを基本として 48 か所を設定した。遺構が検出されたトレンチのいくつかに対しては、拡張して遺構の確認を行った。

対象地の全域から縄文時代竪穴住居跡 15 軒、土坑 37 基を確認した。基本的な層序は、１：表土層、２：黒褐色土層、３：褐色土層、４：暗褐色土層、５：明褐色土層（ソフトローム層）の５層からなる。１層の耕作土は 0.25ｍ～0.5ｍを測り、東側が厚く堆積する。２層は 0.1ｍ前後、３層は 0.1ｍ～0.2ｍの比較的均一な堆積状態であり、４層は地点によって厚薄があった。遺構は、４層の上面で確認でき、表土上面より 0.45ｍから 0.6ｍの深さで確認している。

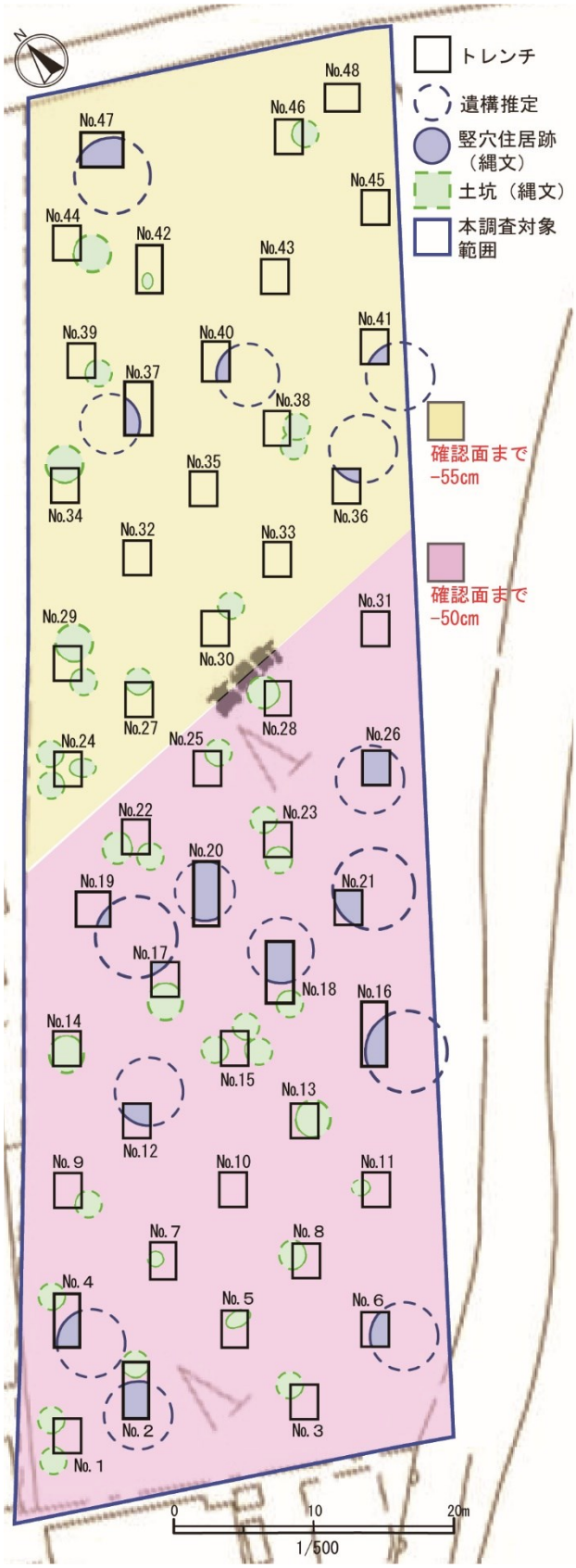


図 12:谷原前遺跡遺構配置図

発掘調査風景

トレンチ No.7 検出状況

トレンチ No.29 検出状況

トレンチ No.38 検出状況

（3）出土遺物

縄文土器 1430 点、土師器 3 点が出土している。縄文土器は早期の撚糸文 2 点、後期の堀之内式、加曽利 B 式が合わせて 4 点が混じる他は加曽利 EⅡ式および加曽利 EⅢ式に比定される。

縄文土器がほとんどのトレンチから出土しており、特に竪穴住居跡を確認したトレンチでは多く出土している。また、竪穴住居跡 1 軒と土坑 1 基で貝の混入を確認しており、貝サンプルを採取している。分析結果は別の機会に報告する。

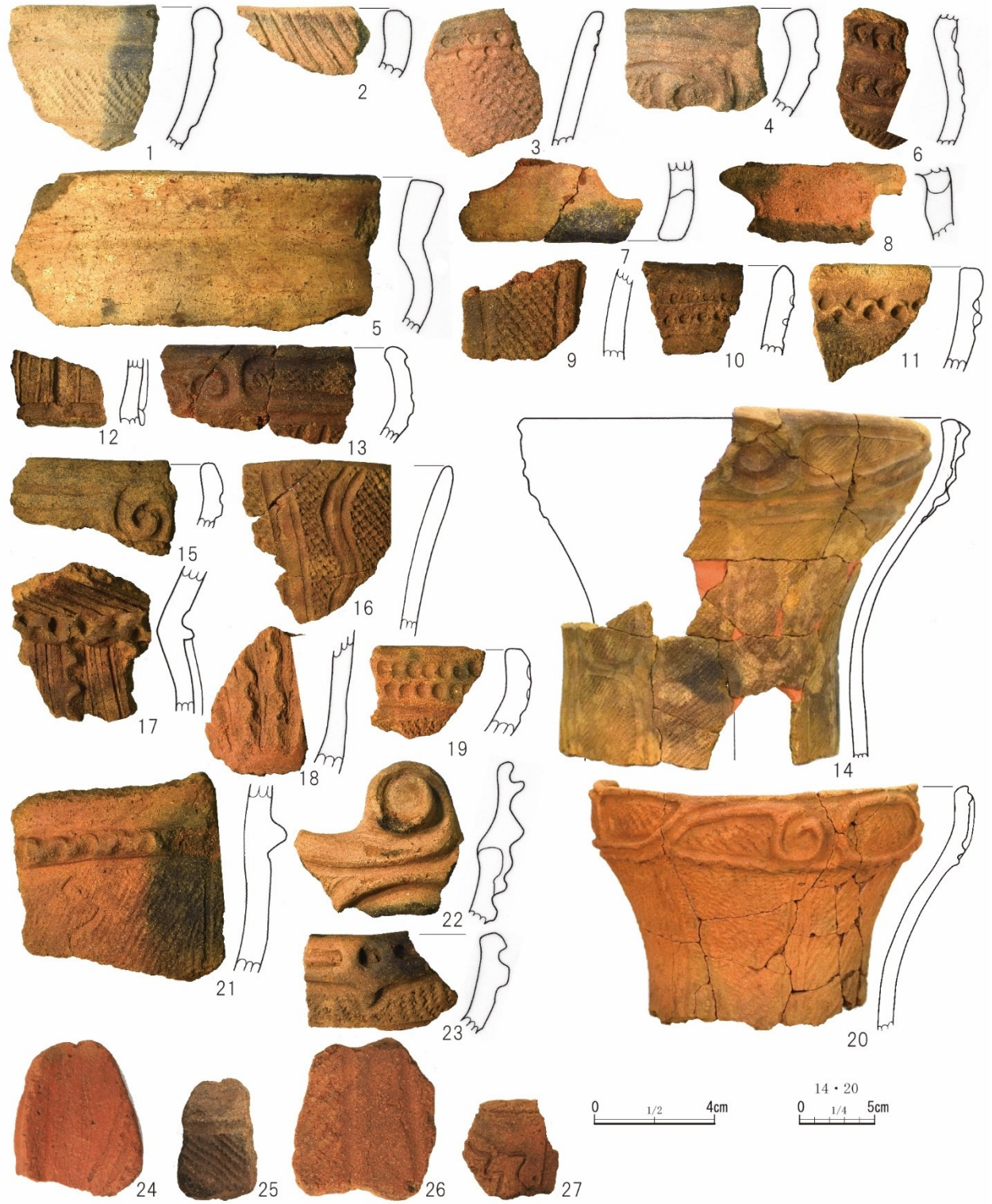


図 13:谷原前遺跡出土遺物(1)

図 14:谷原前遺跡出土遺物(2)

表 4:谷原前遺跡遺物観察表

No.	時代	種別1	種別2	種別3	注記 出土地点	備考
1	縄文	土器	深鉢	加曽利ＥⅡ	37T	キャリパー系。隆帯＋沈線区画。RL
2	縄文	土器	深鉢	加曽利ＥⅠ？	39T	頸部下端太い刻み隆帯区画。頸部横位集合沈線。胴部RL→多截竹管による沈線
3	縄文	土器	深鉢	加曽利ＥⅠ？	47T	隆帯＋沈線区画。縄文あり。突起部隆帯渦巻文
4	縄文	土器	深鉢	加曽利ＥⅠ～Ⅱ	南側	キャリパー系。隆帯＋沈線区画＋剣先文。RL
5	縄文	土器	深鉢	加曽利ＥⅡ	20T	キャリパー系。隆帯＋沈線区画＋渦巻文。頸部無文下に沈線区画・意匠文＋磨消。RL
6	縄文	土器	深鉢	加曽利ＥⅡ	02T	キャリパー系。沈線区画文。RL前段多条
7	縄文	土器	台付鉢	加曽利ＥⅡ	02T	曽利系。口唇弱い沈線→太い集合沈線、平行沈線で一部管内痕
8	縄文	土器	台付鉢	加曽利ＥⅡ	03T	連弧文系。口縁平行沈線間に円形交互刺突文。複節LRL
9	縄文	土器	浅鉢	加曽利Ｅ	05T	無文浅鉢。内面胴部粗いナデ。内面口縁～外面入念なナデ、おそらく赤彩ありだが残らず
10	縄文	土器	深鉢	加曽利ＥⅡ	06T	連弧文系。弧状沈線・磨消。撚糸文
11	縄文	土器	深鉢	加曽利ＥⅡ	06T	連弧文系。弧状沈線・磨消＋大きなＣ字状刺突文。撚糸文
12	縄文	土器	器台	加曽利Ｅ	07T	側面～下部。円孔
13	縄文	土器	器台	加曽利Ｅ	07T	上部付近～側面。円孔
14	縄文	土器	深鉢	加曽利ＥⅡ	13T	胴部。撚糸文＋沈線間磨消
15	縄文	土器	深鉢	加曽利ＥⅡ	13T	胴部。複節LRL＋沈線間磨消
16	縄文	土器	深鉢	加曽利ＥⅡ	13T	連弧文系。口縁平行沈線間に円形連続刺突文。口縁肥厚部剥離
17	縄文	土器	深鉢	加曽利ＥⅡ	13T	連弧文系。口縁平行沈線→交互刺突文。撚糸文
18	縄文	土器	深鉢	加曽利ＥⅡ	13T	曽利系。胴部平行沈線→頸部＋縦貼付隆帯
19	縄文	土器	深鉢	加曽利ＥⅡ	14T	キャリパー系。隆帯＋沈線区画・渦巻文。複節LRL
20	縄文	土器	深鉢	加曽利ＥⅡ	20T	キャリパー系、口縁部文様帯なし。複節LRL→沈線間磨消
21	縄文	土器	深鉢	加曽利ＥⅡ	20T	曽利系。縦平行沈線→縦・貼付交互押圧隆帯
22	縄文	土器	深鉢	加曽利ＥⅡ	20T	連弧文系。口縁平行沈線間に円形連続刺突文。撚糸文
23	縄文	土器	深鉢	加曽利ＥⅢ	20T	横位連繋弧線文系。弧状沈線意匠文＋磨消。RL
24	縄文	土製品	土器片錘	加曽利ＥⅡ	04T	切込み一つ欠損
25	縄文	土製品	土器片錘	加曽利ＥⅡ	47T	
26	縄文	土製品	土器片錘	加曽利ＥⅡ	47T	切込み両側とも浅く広い
27	縄文	土製品	ミニチュア		24T	横位・縦位・縦位蛇行沈線
28	縄文	石器	磨製石斧	砂岩	02T	定角式。基部欠損後磨石類に転用
29	縄文	石器	磨製石斧	緑色岩	17T	小形磨製石斧。細長い短冊状。先端欠損
30	縄文	石器	磨製石斧	砂岩	38T	小形磨製石斧。基部破片
31	縄文	石器	磨製石斧	ホルンフェルス	47T	小形磨製石斧。両端欠損。細い短冊状
32	縄文	石器	打製石斧	ホルンフェルス	20T	分銅形。中央で欠損、刃部欠損
33	縄文	石器	打製石斧	ホルンフェルス	40T	礫斧。楕円形。
34	縄文	石器	箆状石器	ホルンフェルス	18T	一方は尖り、一方は丸い
35	縄文	石器	石鏃	チャート	20T	凹基、小形。先端欠損
36	縄文	石器	石鏃	チャート	17T	先端部片

（4）調査結果

確認した竪穴住居跡は、対象地北東側で５軒、中央付近で７軒、南西側で３軒がまとまって分布しており、土坑はその周辺に点在して検出している。この状況は、令和元年度に確認調査を実施した道路を挟んだ北東側隣接地においても竪穴住居跡３軒、土坑３基のまとまりを確認しており、同様である。今回調査した部分は、集落の中の最も遺構の密集した部分と考えられる。

縄文時代の遺構を対象地全域で確認し、その範囲 2,900 ㎡について本調査が必要である旨を通知した。(2 千教埋セ第 375 号)

その後の協議で対象地については、盛土を施し遺構確認面上に 0.3m の保護層を確保したうえで遺構を保存し、影響の無いように工事を行うことで合意した。

3　松原遺跡（まつばらいせき）

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
3	松原遺跡	確認調査	2千教埋セ第59号	2020年12月17日から12月24日	81.6㎡（775㎡）	山下 亮介
		国庫補助	中央区南生実町1048,1050,1051,1052,1054,1057,1091,1094,1097の各一部	宅地造成	株式会社千匠	

＊調査面積の下段（ ）内は事業面積

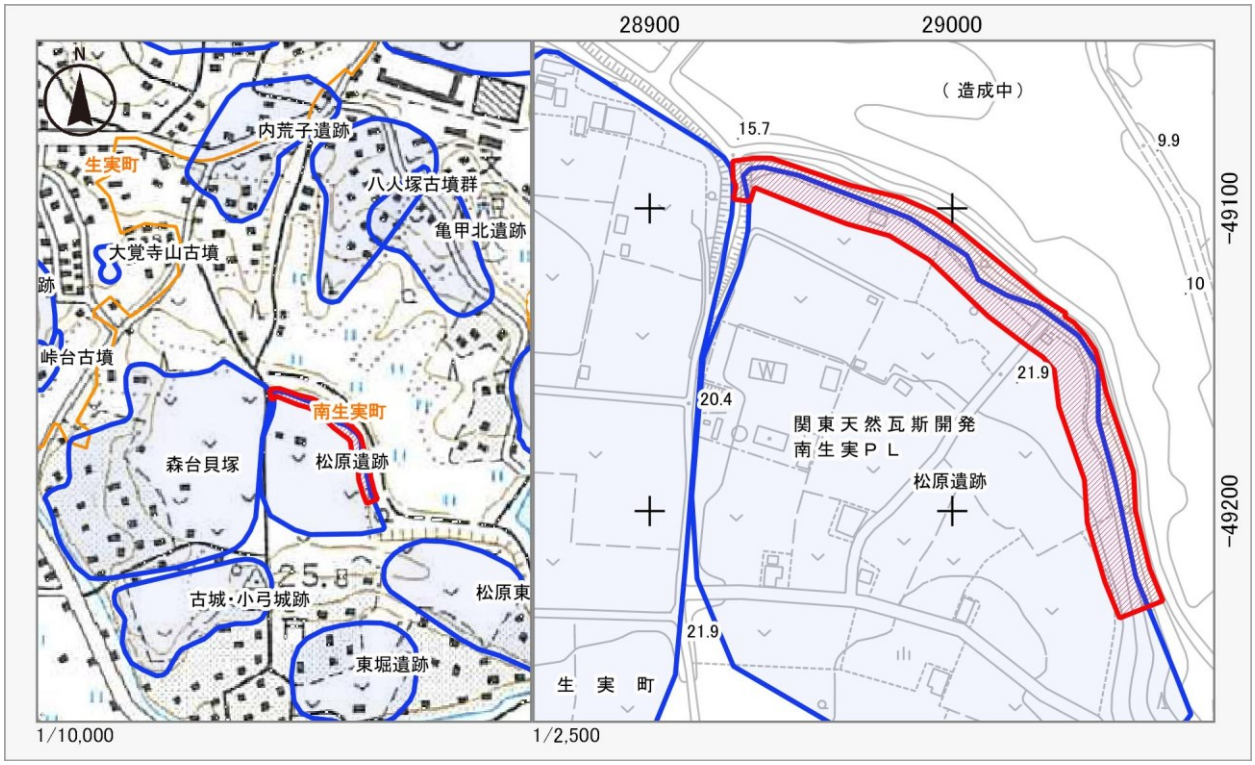


図 15：松原遺跡位置図

（1） 調査に至る経緯

平成 30 年 10 月 23 日付けで株式会社シティーハートから「埋蔵文化財の所在の確認及びその取扱いについて」の依頼があり、平成 31 年 3 月 15 日・18 日に試掘調査を実施。その結果、古墳時代住居跡 7 件、中世溝状遺構 4 条・土坑 2 基を確認し、遺跡ありで回答した。（30 千教埋セ第 257 号）

令和 2 年 5 月 1 日付けで株式会社千匠から文化財保護法第 93 条に基づく届出が提出されたため、「発掘調査」指示（2 千教埋セ第 59 号）を回答した。事業者とは協議の上、本調査が必要な範囲を確定するための確認調査を実施することで協議が整い、事業計画の進捗に沿って調査を実施することとなった。

（2）調査概要

調査対象地は、台地北側で計画されている宅地造成事業地内のうち、先行して工事を行う北側急傾斜地部分とその台地上平坦部の 2,345.27 ㎡であり、調査は遺跡範囲に含まれる 775 ㎡を対象とした。

調査区は、北西から南東にかけて最大幅約 8.5m、長さ約 180m で東に膨らむ弓状の形状をしている。調査区に合わせて幅 1.2m～2m、長さ 2.5m～24m の確認トレンチを 8 か所設定して調査した。

調査の結果、№2、4、6、7 トレンチで竪穴住居跡を確認した。各トレンチのうち№2～5 トレンチは表土層が盛土（0.2～0.3m）となっており、その下層にロームブロックを含む耕作土を確認し

た。№1、6、7、8 トレンチでは表土層が耕作土層であった。耕作土の下は、褐色の山砂ブロックが入る層が№1、5 トレンチ以外で確認でき、この層を含めた上の層が盛土層である可能性が高い。

遺構の確認はほぼローム層上面において確認している。№1～7 トレンチは、ローム層上面まで 0.7m～1.1m を測り、No.8 で 0.4m である。

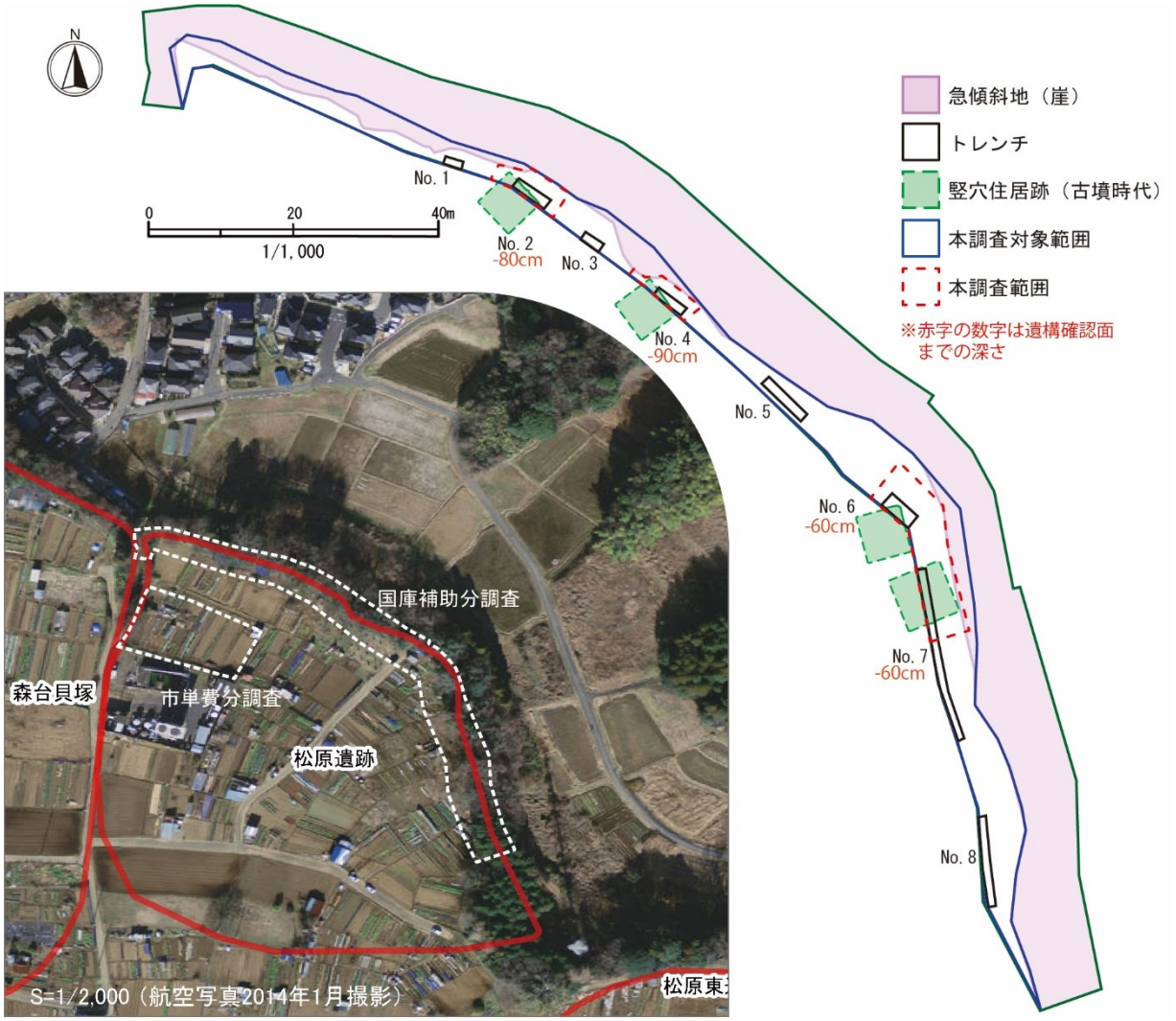


図 16:松原遺跡遺構配置図

発掘調査風景

対象地を崖下から見上げる

No.2 トレンチ遺構検出状況

No.6 トレンチ遺構検出状況

（3）出土遺物

縄文土器 1 点、土師器 91 点、須恵器 1 点、鉄鏃 1 点などが出土している。縄文土器は前期後葉の浮島式から興津式に比定される。土師器は赤彩や柱状の脚部を持つ高坏などから古墳時代前期終わりから中期初めごろのものと考えられる。

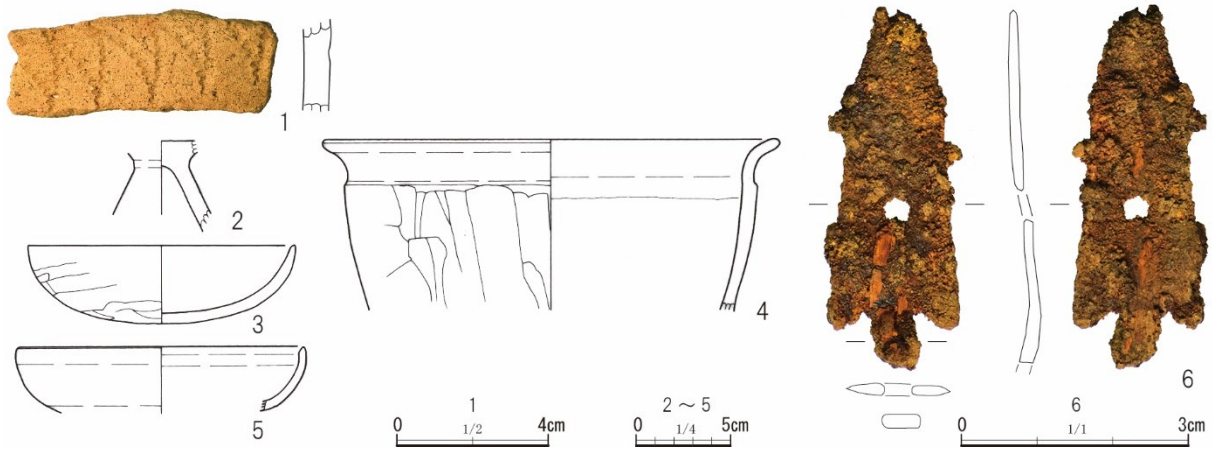


図 17:松原遺跡出土遺物

表 5:遺物観察表

No.	時代	種別1	種別2	種別3	注記 出土地点	備考
1	縄文	土器	深鉢	浮島	05T	波掻貝殻文。フネガイ科腹縁、やや掻り引く
2	古墳	土師器	高坏		01T	高坏脚上部。外面赤彩・タテヘラケズリ
3	古墳	土師器	坏		02T	体～底部外面ヘラケズリ。外面上半と内面に赤彩
4	古墳	土師器	甕		07T住(西)	口縁外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ
5	古代	須恵器	坏		08T	外面下半回転ヘラケズリ。内面ヨコナデ・黒彩
6	古墳	鉄器	鉄鏃		07T住(西)	中央に穴、柄には木質が付着

（4）調査結果

検出した 4 軒の竪穴住居跡は、中央部北側の台地縁辺部で 2 軒、やや南東側に離れて近接して 2 軒を確認した。北側の 2 軒のうち 1 軒はカマドを有し、形状はすべて方形で一辺 7.5m以上を測ると思われる。竪穴住居跡の遺構確認面からは土師器や鉄鏃などが出土していることから古墳時代前期を主体とした集落跡と思われる。

今回の調査から古墳時代から古代の集落が台地の縁辺部まで展開していることが明らかとなり、その範囲 190 ㎡について本調査が必要である旨を通知した。(2 千教埋セ第 421 号)

4　松原遺跡（まつばらいせき）

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
4	松原遺跡	確認調査	2千教埋セ第360号	2021年3月16日から3月26日	115㎡（1,239㎡）	山下 亮介
		市単費	中央区南生実町1087	宅地造成	株式会社千匠	

＊調査面積の下段（ ）内は事業面積

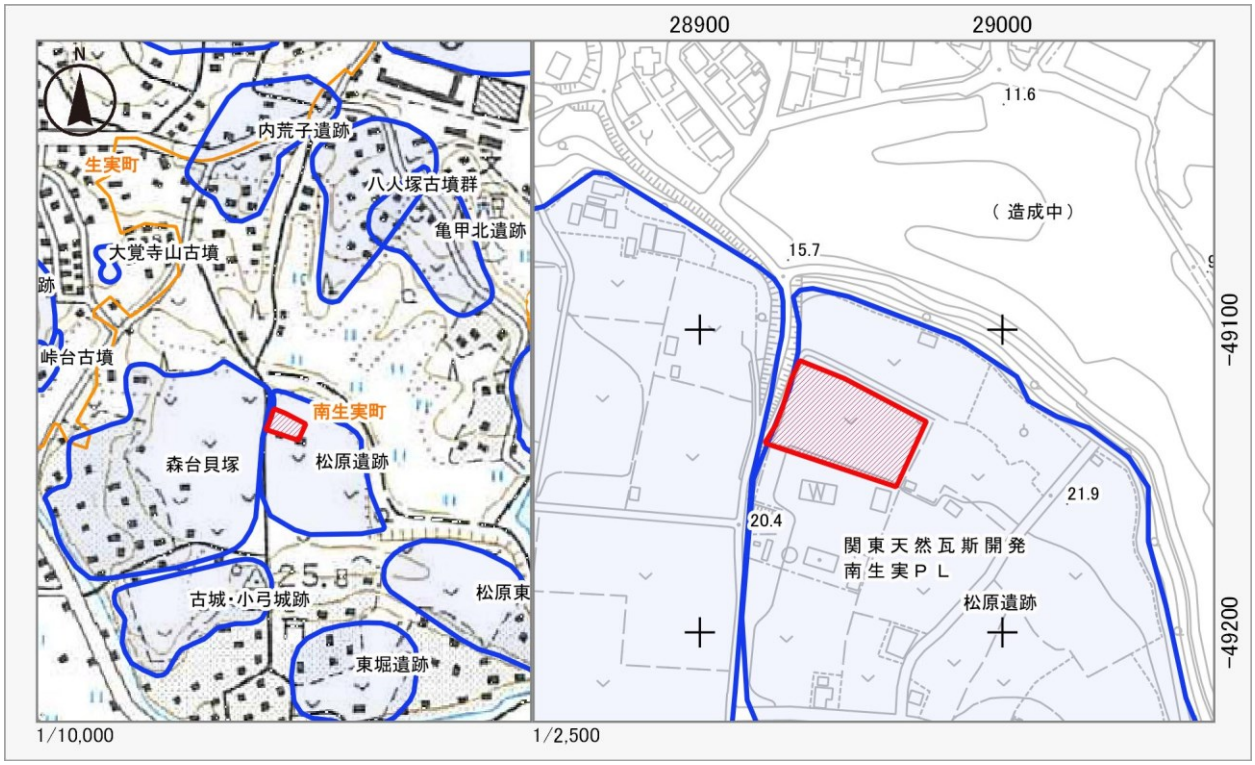


図 18：松原遺跡位置図

（1）調査に至る経緯

平成 30 年 10 月 23 日付けで株式会社シティーハートから「埋蔵文化財の所在の確認及びその取扱いについて」の依頼があり、平成 31 年 3 月 15 日・18 日に試掘調査を実施。その結果、古墳時代住居跡 7 件、中世溝状遺構 4 条・土坑 2 基を確認し、遺跡ありで回答した。（30 千教埋セ第 257 号）

令和 2 年 5 月 1 日付けで株式会社千匠から文化財保護法第 93 条に基づく届出が提出されたため、「発掘調査」指示（2 千教埋セ第 59 号）を回答した。

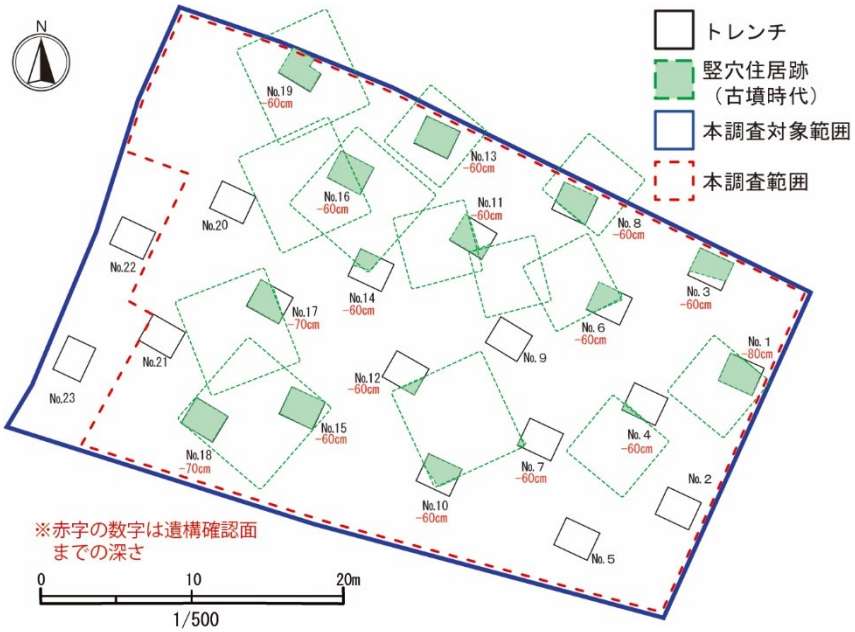


図 19：松原遺跡遺構配置図

事業者とは協議の上、本調査が必要な範囲を確定するための確認調査を実施することで協議が整い、事業計画の進捗に沿って調査を実施することとなった。

事業地北西側の畑地の一部について令和 3 年 3 月 9 日付けで埋蔵文化財発掘調査依頼を受け、市教育委員会が調査を実施した。

（2）調査概要

台地北側で計画している宅地造成事業地内のうち先行して工事を行う予定の 1,239 ㎡について、東西に長い方形の地形に合わせ 10ｍのグリッドを任意に設定し、2m×2.5ｍを基本に 23 か所のトレンチを設定した。

対象地の西端を除くほぼ全域で竪穴住居跡などの遺構が確認された。

各トレンチの堆積状況から得られた基本的な層序は、1：表土層、2：褐色土層（暗）及び類似層、3：褐色土層及び類似層、4：明褐色土層（ソフトローム層）の 4 層からなる。1 層は耕作土で 0.25m～0.5ｍを測り、東側が厚く堆積する傾向を示している。遺構は、 3 層及び 4 層の上面で確認でき、表土上面より 0.5ｍから 0.9ｍの深さで古墳時代の竪穴住居跡 14 軒を検出した。

発掘調査風景

No.6 トレンチ遺構検出状況

No.10 トレンチ遺構検出状況

No.19 トレンチ遺構検出状況

（2）出土遺物

縄文土器 12 点、土師器 181 点、須恵器 2 点、その他に鉄滓、石器などが出土。縄文土器は前期中葉から阿玉台式に比定される。土師器は比較的薄い赤彩の坏、柱状の脚部を持つ高坏から古墳時代前期終わりから中期初めごろのものと考えられる。

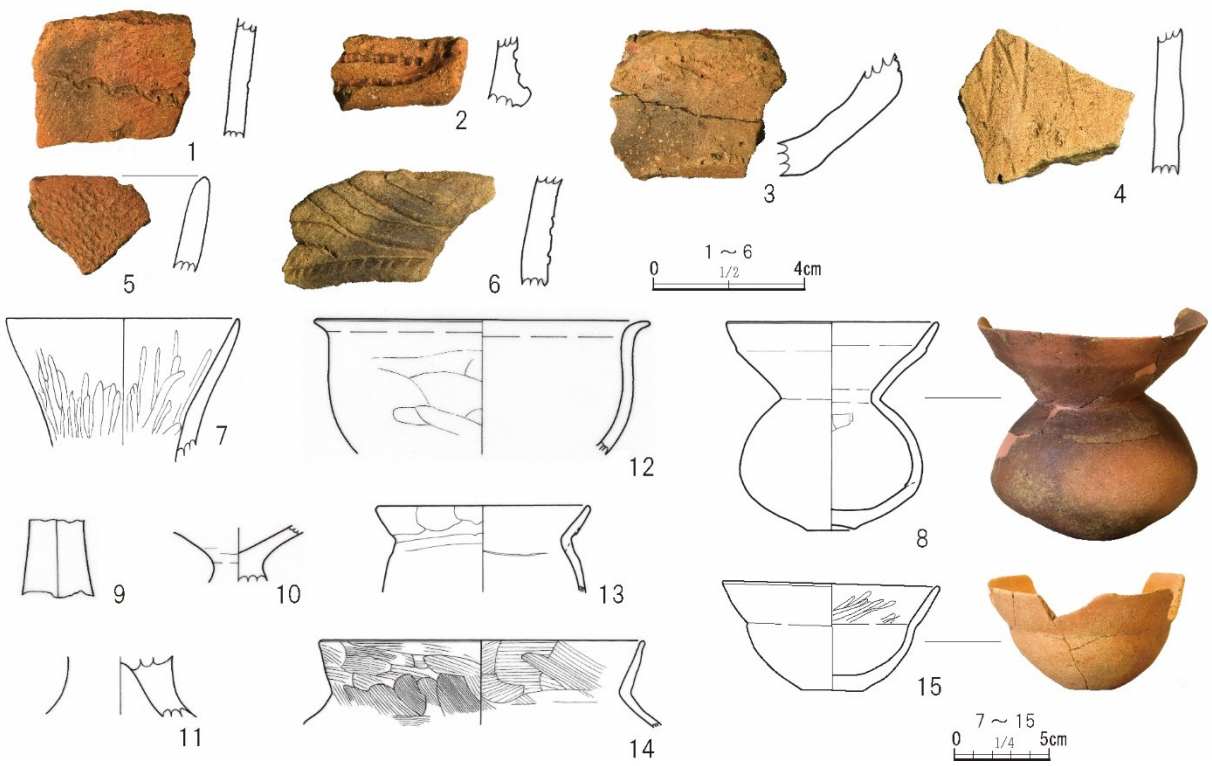


図 20:松原遺跡出土遺物

表 6:松原遺跡遺物観察表

No.	時代	種別1	種別2	種別3	注記 出土地点	備考
1	縄文	土器	深鉢	前期末・中期初頭	16T	無節縄文＋結節回転文
2	縄文	土器	深鉢	阿玉台Ib	16T	隆帯＋角押文１列区画内に角押文充填
3	縄文	土器	鉢	諸磯b	6Tイコウ内	底部～屈曲する胴下部。平行沈線意匠文
4	縄文	土器	深鉢	浮島	04T	波状貝殻文。波長長い
5	縄文	土器	深鉢	黒浜	09T	口縁部。RL多方向に施文
6	縄文	土器	深鉢	浮島Ⅰb	09T	爪形文区画文内に爪形文による弧状意匠文
7	古墳	土師器	坩形土器		16Tイコウ内	口縁部。内外面タテヘラミガキ
8	古墳	土師器	坩形土器		19Tイコウ内	口縁ヨコナデ。内面黒色物質付着
9	古墳	土師器	高坏		17Tイコウ内	棒状の脚部上半。古墳前期後半～中期前半
10	古墳	土師器	高坏		10T	坏底部～脚部上部。精製粘土
11	古墳	土師器	高坏		08Tイコウ内	高坏脚下半。外面ヨコナデ。内外面。赤彩
12	古墳	土師器	甕		11T	口縁～頸部にヨコナデ。胴部にヨコヘラケズリ
13	古墳	土師器	甕		15Tイコウ内	粗い折り返し口縁。口唇部に押圧痕
14	古墳	土師器	甕		17Tイコウ内	口縁ハケナデ。頸～胴部ナナメヘラナデ、ハケ
15	古墳	土師器	坩形土器		14Tイコウ内	胴部半球状。古墳前期後半

（4）調査結果

検出した竪穴住居跡は、対象地で密集した展開をしており、一部遺構の重複も確認している。

古墳時代の竪穴住居跡 14 軒を確認し、その範囲 1,145 ㎡について本調査が必要である旨を通知した。(2 千教埋セ第 542 号)

今回調査した部分は、事業地内の北側の一部であったが、集落の密集域と考えられ、遺構の展開は周辺域にも広がっていると予想される。

5　築地貝塚（きじかいづか）

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
5	築地貝塚	確認調査	2千教埋セ第386号	2021年2月8日から2月10日	30㎡（294.83㎡）	松田 光太郎
		市単費	花見川区長作町296番	戸建専用住宅建設および宅地造成	タクトホーム株式会社	

＊調査面積の下段（ ）内は事業面積

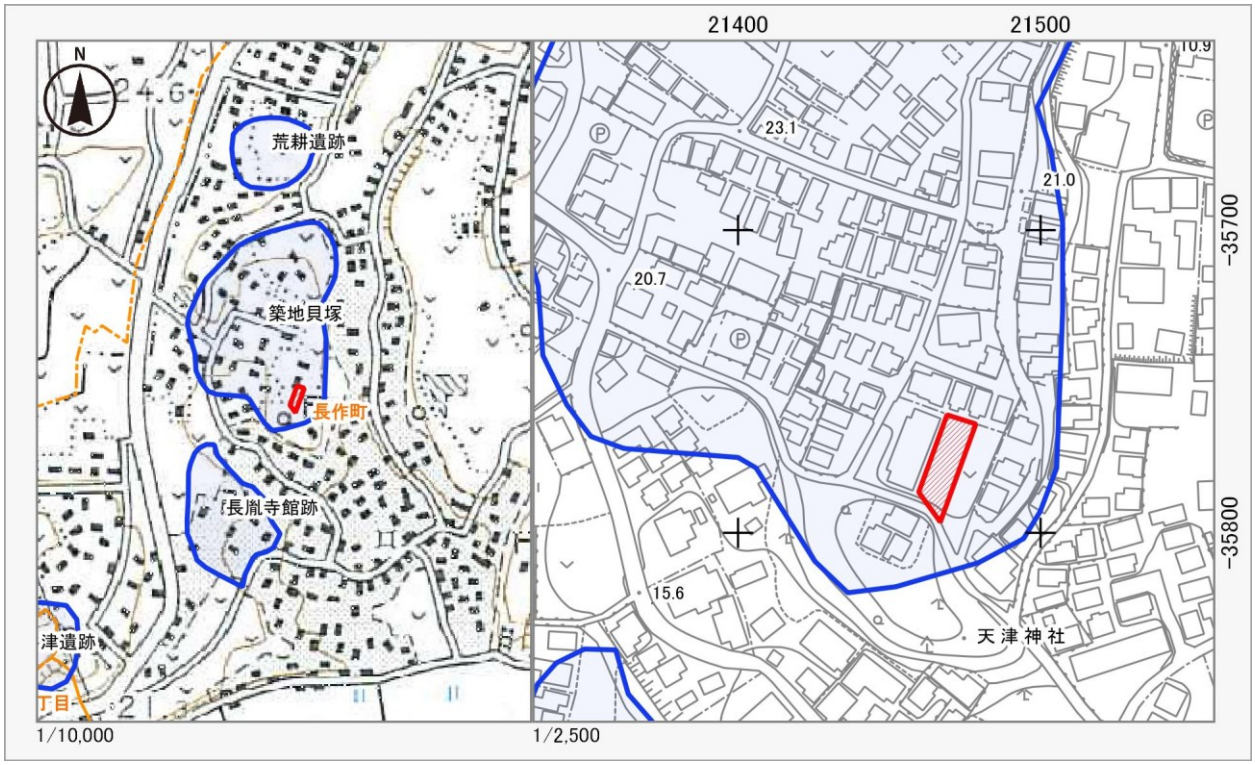


図 21：築地貝塚位置図

（1）調査に至る経緯

令和 2 年 12 月 7 日、タクトホーム株式会社より、戸建専用住宅建設および宅地造成のための埋蔵文化財発掘調査の届出（文化財保護法第 93 条に基づく届出）が、294.83 ㎡で提出された。令和 3 年 1 月 21 日、試掘調査を実施した結果、縄文時代の土坑が検出された。

これにより 1 月 26 日、工事着手前の「発掘調査」指示を通知した（2 千教埋セ第 386 号）。通知後、本調査が必要な範囲を確定するため、確認調査を実施することで協議が整い、令和 3 年 2 月 3 日、タクトホーム株式会社より、埋蔵文化財発掘調査依頼書が提出され、2 月 15 日から確認調査を実施することとなった。

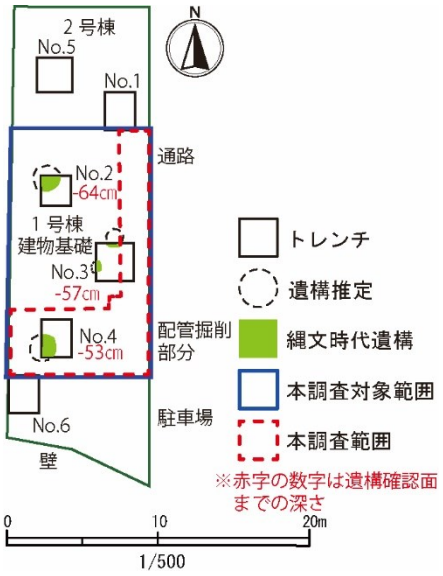


図 22：築地貝塚遺構配置図

（2）調査概要

トレンチ 6 か所の掘削による総面積 30 ㎡の確認調査を実施した。調査区の中央から南側に設定した 3 か所のトレンチにおいて、縄文時代後期前葉の土坑を含む、土坑 3 基、柱穴 1 基が検出された。

調査着手前

No.2 トレンチ遺構検出状況

No.3 トレンチ遺構検出状況

No.4 トレンチ遺構検出状況

（3）出土遺物

縄文土器 27 点、土師器 16 点、須恵器 1 点、磁器 1 点が出土。縄文土器のうち数点は加曽利 EⅢ式、称名寺式、堀之内 1 式などに比定される。

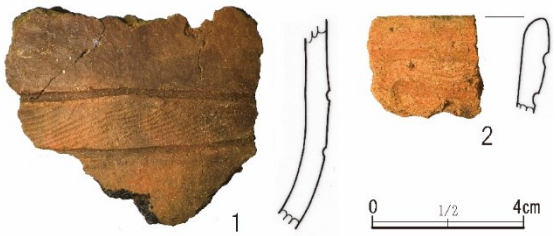


図 23:築地貝塚出土遺物

表 7:遺物観察表

No.	時代	種別1	種別2	種別3	注記 出土地点	備考
1	縄文	土器	深鉢	称名寺	05T表土	深い平行沈線内にLR細密縄文充填
2	縄文	土器	深鉢	称名寺	03T	沈線意匠文内にLR細密縄文充填。口縁内削ぎ状

（4）調査結果

本貝塚は縄文時代後期前葉から中葉にかけての環状貝塚として知られている。今回の調査は遺跡の南東隅に相当し、東側の斜面に隣接する台地平坦部の縁辺に立地する。環状貝塚の主体部からは離れているが、縄文時代後期初頭～前葉の遺構・遺物が台地東縁辺部まで存在していることが確認された。

遺構の確認により 144 ㎡が本調査対象範囲となり、本調査を実施することとなった。

6　西側遺跡（にしがわいせき）

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
6	西側遺跡	確認調査	2千教埋セ第478号	2021年4月16日から5月6日	21.35㎡（200.07㎡）	山下 亮介
		市単費	中央区蘇我一丁目13番9	宅地造成	個人	

＊調査面積の下段( )内は事業面積

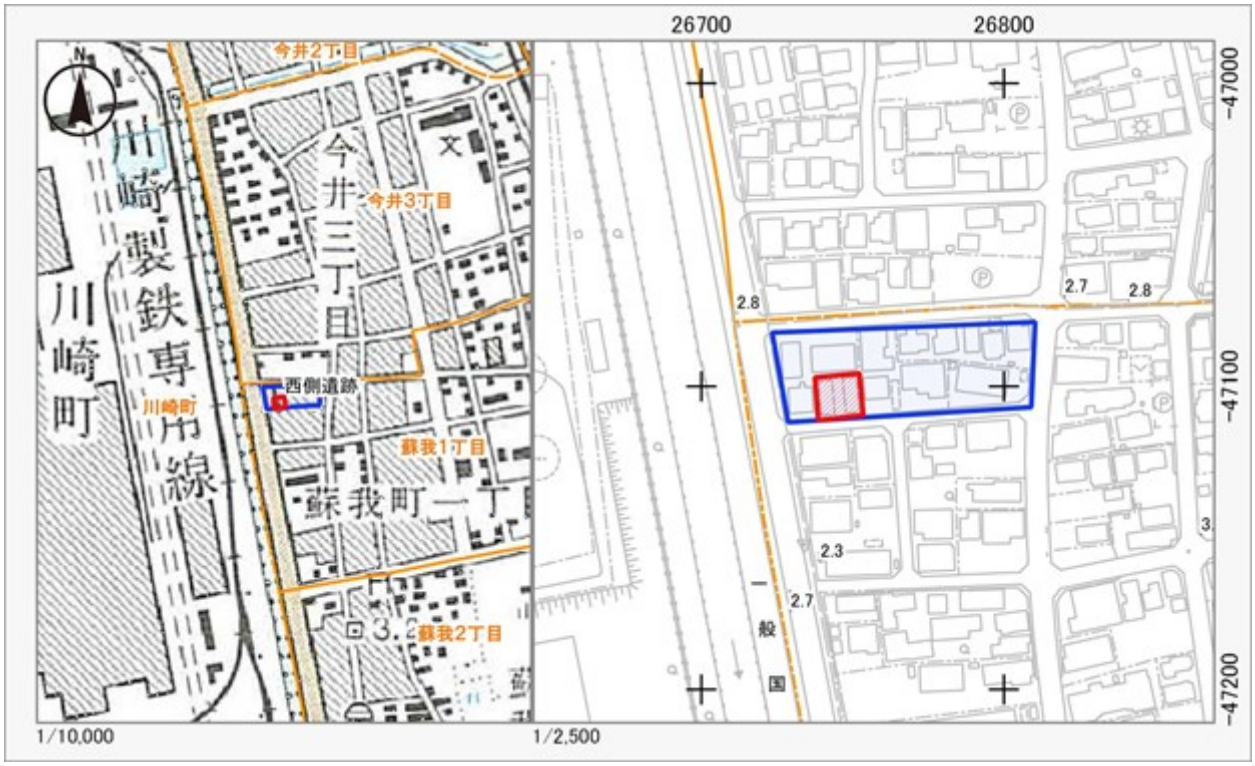


図 24：西側遺跡位置図

（1）調査に至る経緯

令和 3 年 2 月 16 日付けで個人から、個人住宅建設に伴う文化財保護法第 93 条に基づく届出が提出された。試掘調査を実施した結果、中・近世と考えられる埋葬人骨 1 個体を確認したため、協議のうえ確認調査を実施した。

（2）調査概要

平成 18 年度に行われた対象地の北東隣接地の発掘調査において、中・近世の埋葬人骨 4 個体が出土している。今回の調査は、200.07 ㎡の方形の敷地にトレンチ（2m×2.5m）を 4 か所設定した。

対象地は、全体が砂質土壌で構成されており、各トレンチの表土層の厚さは 10 ㎝～60 ㎝と一定でなく砂粒を主体にして砕石や貝片等のゴミが含まれている。その下層は部分的に攪乱が多く認められるが、攪乱に切られていない部分は単一の褐色砂層が認められる。墓壙はこの層より掘り込まれている。単一褐色砂層は、No.2、4 トレンチで 1m以上の堆積があり、その下に貝片を多く含むやや粒子の粗い砂層が続いている。共に遺物等は含まれていない。

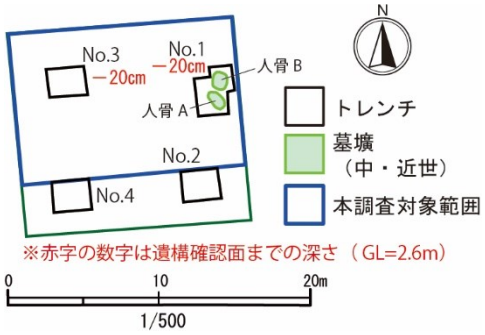


図 25：西側遺跡遺構配置図

No.1 トレンチからは、墓壙 2 基とそれに伴う人骨 2 個体を確認し、No.3 トレンチの撹乱内からは人骨 3 個体を確認している。人骨の詳細については機会を改めて報告したい。

No.2 及び No.4 トレンチで砂層の下層確認を行ったところ厚さ 110 ㎝ほどの風成砂層の下から、貝殻の破片が多く混在する干潟の堆積が標高 1.0m で確認された。干潟から陸地化していく過程や年代など不明な部分が多く、今後の課題として残された。

No.1 トレンチ人骨 A 出土状況

No.1 トレンチ人骨 B 出土状況

No.1 トレンチ人骨 B 出土状況

No.1 トレンチ人骨 B 古銭出土状況

No.4 トレンチ深堀状況

近世以降の出土遺物

（3）出土遺物

中世遺物が中心ではあるが古墳時代のものと思われる土師器が 8 点出土。明らかなものは古墳時代前期後半から中期初頭に比定される。また、No.1 トレンチや No.3 トレンチから陶器の手焙り、急須、土錘など近世から近代にかけての遺物が出土しており、漁村であった頃の面影をしめす。

また、No.1 トレンチの人骨 A に銭貨 5 枚、人骨 B に銭貨 6 枚の計 11 枚が共伴している。人骨 B の銭貨は繊維質のものに包まれた状態で胸のあたりから出土しており、いわゆる死者を弔うための六文銭であろう。銭貨の構成は下表のとおり。

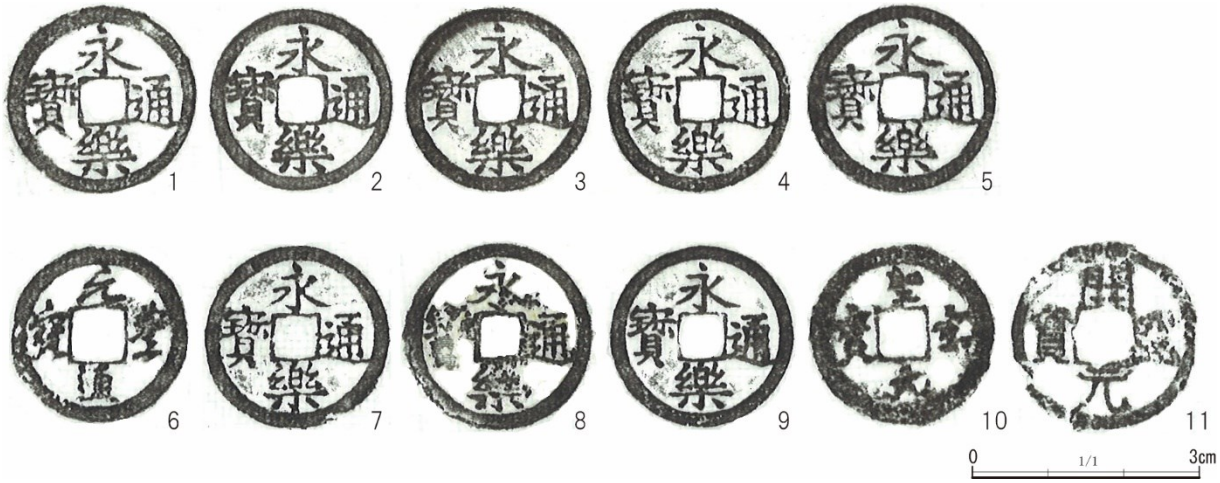


図 26:西側遺跡出土銭貨

表 8:西側遺跡出土銭貨一覧表

No.	出土地点	銭貨名	初鋳年	王朝名	外径:縦	外径:横	外縁最大厚	重量
1	No.1トレンチ人骨A共伴	永楽通宝	1411	明	25.32	25.06	1.59	3.2
2	No.1トレンチ人骨A共伴	永楽通宝	1411	明	24.54	24.56	1.17	3.0
3	No.1トレンチ人骨A共伴	永楽通宝	1411	明	24.73	24.73	1.30	3.3
4	No.1トレンチ人骨A共伴	永楽通宝	1411	明	25.12	25.01	1.21	2.6
5	No.1トレンチ人骨A共伴	永楽通宝	1411	明	24.51	24.43	1.24	2.8
6	No.1トレンチ人骨B共伴	元豊通宝	1078	北宋	23.92	23.79	1.24	2.9
7	No.1トレンチ人骨B共伴	永楽通宝	1411	明	24.92	24.94	1.47	3.1
8	No.1トレンチ人骨B共伴	永楽通宝	1411	明	24.99	25.24	1.52	3.5
9	No.1トレンチ人骨B共伴	永楽通宝	1411	明	24.32	24.40	1.26	3.4
10	No.1トレンチ人骨B共伴	聖宋元宝	1101	北宋	24.66	24.87	1.13	2.8
11	No.1トレンチ人骨B共伴	開元通宝	621	唐	25.25	24.77	1.17	2.3
					（㎜）	（㎜）	（㎜）	（g）

（4）調査結果

調査の結果から遺構等を確認した事業地の北側 149 ㎡について、本調査対象範囲とした。その後の取り扱いとして、対象範囲については盛土を施し、遺構確認面上に 30 ㎝の保護層を確保したうえで遺構を保存し、埋蔵文化財に影響の無いよう工事を行うことで合意した。

今回の調査で確認した墓壙と人骨、更に平成 18 年度に発見された人骨等から見てこの地が墓域の一画であったことが明らかとなった。墓壙の時期については、共伴遺物の銭貨から判断すると中世後半から近世前半の時期と考えられる。

7　猪鼻城跡（いのはなじょうあと）

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
7	猪鼻城跡	確認調査	3千教埋セ第122号	2021年5月26日から 6月10日、8月10日から11日	268㎡ (5,445㎡)	木口 裕史
		市単費	中央区亥鼻一丁目64番1,同番5,322の各一部	学校建設	国立大学法人千葉大学	

＊調査面積の下段( )内は事業面積

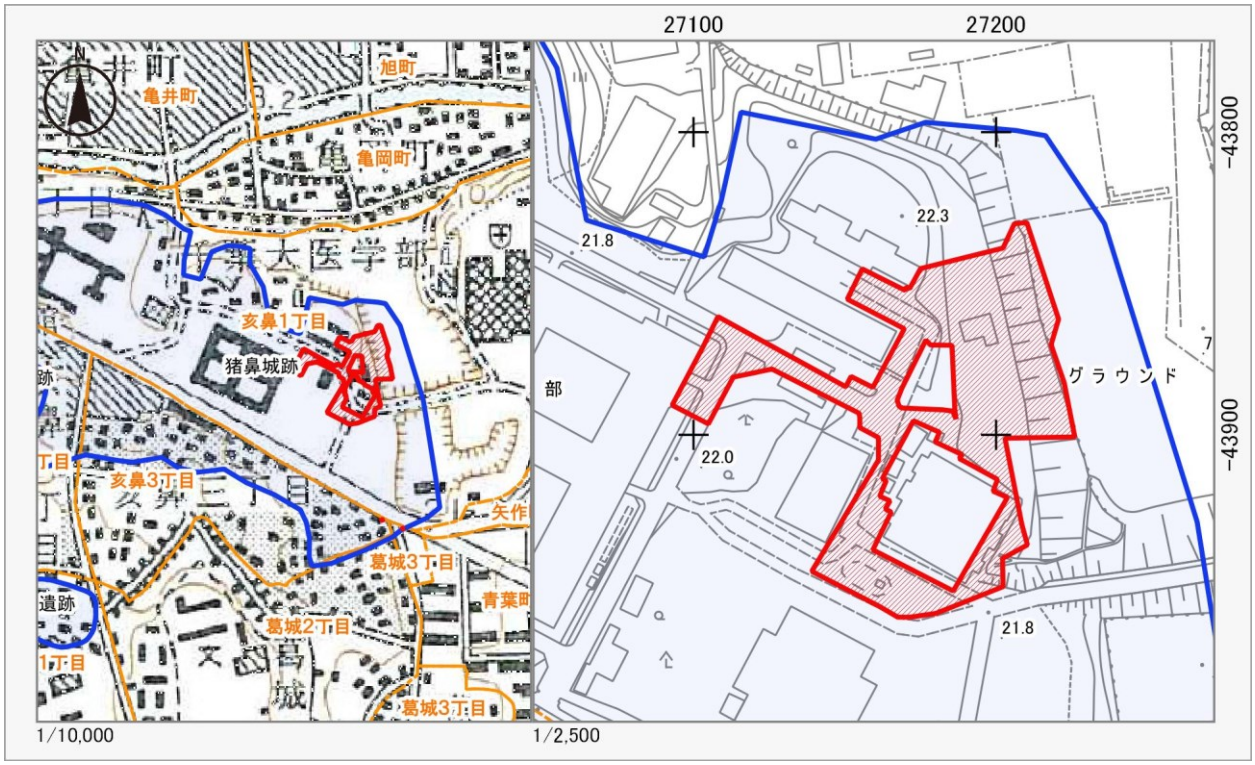


図 27：猪鼻城跡位置図

（1）調査に至る経緯

令和 3 年 4 月 15 日付けで国立大学法人千葉大学より、新規の研究棟建設のための埋蔵文化財発掘調査の届出が事業面積 1,700 ㎡で提出された。対象地は猪鼻城跡の範囲内であり、市指定史跡七天王塚 5 号塚をも含んでいたため、速やかに確認調査に着手することとなった。

確認調査着手後、インフラ工事も予定されていることが分かり、令和 3 年 6 月 18 日に事業面積 5,445 ㎡で埋蔵文化財発掘調査の届出が再提出され、8 月 10 日から 2 日間の追加調査を行った。

（2）調査概要

市指定史跡七天王塚 5 号塚はその範囲が明確にされていたかったため、今回の調査では事業地内の埋蔵文化財を確認するとともに、塚の範囲を確定し保護範囲を明確にすることとした。

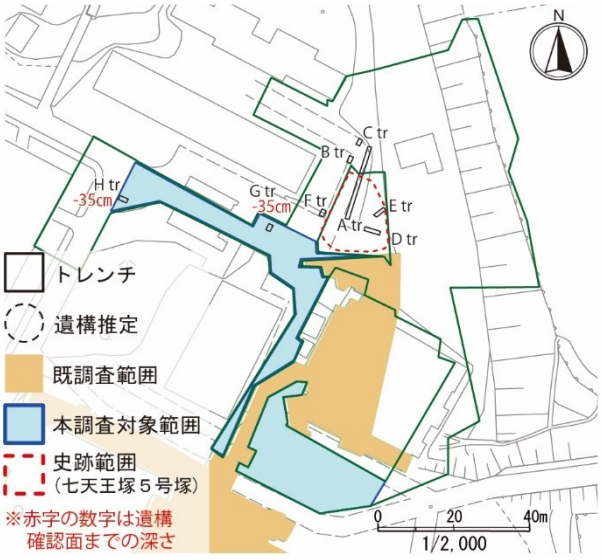


図 28：猪鼻城跡トレンチ配置図

Ａトレンチは塚の南北方向への広がりを確認するために、幅１ｍ長さ 20ｍで設定した。Ａトレンチの中央部から北側では、大きな土地改変の痕跡が確認された。これは 1978 年に調査区北西に隣接する学生寮を建設した際のものと思われる。一帯を平坦に削平し、その上に瓦、コンクリートガラなどが塚周辺に盛土されている。この学生寮建設の付帯工事として塚の周囲に高さ１ｍの擁壁と鉄柵が設置されている。

Ａトレンチの南側では、盛土により形状が判然としていなかった塚の高まりとその外側に幅１ｍほどの溝を確認することができた。この遺構が塚の周溝となるかは不明だが、土師器５点が出土している。

現在、塚を囲んでいる柵の西側への遺構の広がりを確認するためにＢ、Ｃ、Ｆトレンチ（各１×1.5ｍ）を設定したが、道路工事によりハードローム層よりも深く削平が及んでおり、埋蔵文化財は確認されなかった。

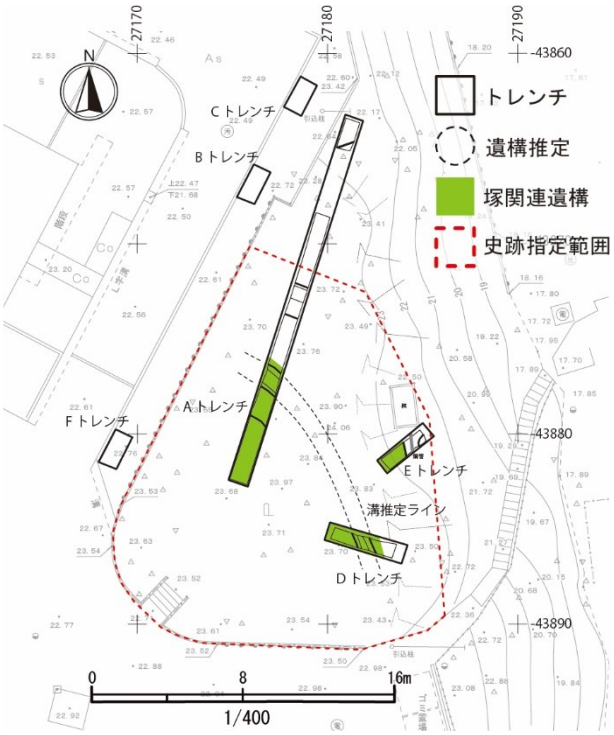


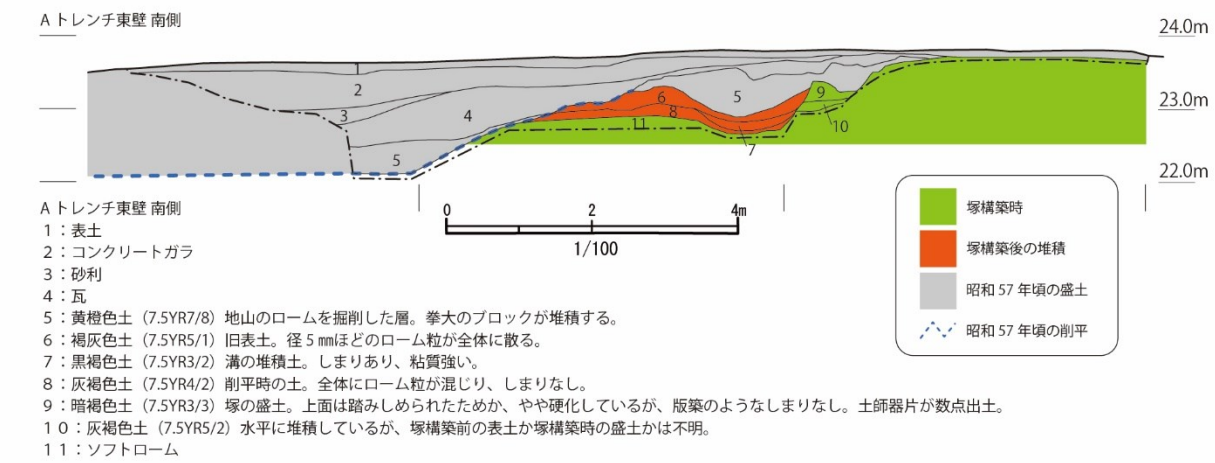
図 29：猪鼻城跡遺構配置図

発掘調査風景（Ａトレンチ）

Ａトレンチ 溝及びセクション

Ａトレンチ 削平後に盛土された様子

Ｂ・Ｃトレンチ掘削状況



Aトレンチ東壁 南側
1：表土
2：コンクリートガラ
3：砂利
4：瓦
5：黄橙色土（7.5YR7/8）地山のロームを掘削した層。拳大のブロックが堆積する。
6：褐灰色土（7.5YR5/1）旧表土。径5㎜ほどのローム粒が全体に散る。
7：黒褐色土（7.5YR3/2）溝の堆積土。しまりあり、粘質強い。
8：灰褐色土（7.5YR4/2）削平時の土。全体にローム粒が混じり、しまりなし。
9：暗褐色土（7.5YR3/3）塚の盛土。上面は踏みしめられたためか、やや硬化しているが、版築のようなしまりなし。土師器片が数点出土。
10：灰褐色土（7.5YR5/2）水平に堆積しているが、塚構築前の表土か塚構築時の盛土かは不明。
11：ソフトローム

図 30:猪鼻城跡セクション図（Aトレンチ）

東の谷側への広がりを確認するためにDおよびEトレンチを設定した。Dトレンチでは塚の高まりとAトレンチで確認された溝につながると思われる溝も確認することができた。溝の底で寛永通宝1点が出土している。

Eトレンチでは塚本体にかかる遺構等は確認できなかったものの、東側の谷へ向けて自然堆積が残っていることを明らかにすることができた。

GおよびHトレンチはインフラ工事の行われる西側に設定した。Gトレンチでは、上水や下水などの配管によって、撹乱されている様子が明らかになったが、部分的に包含層と思われる層が確認できた。Hトレンチではローム層まで削平した後に、ローム層を掘り込んで建物の基礎と思われるレンガが確認されている。

Dトレンチ 北壁セクション

Eトレンチ 南壁セクション

Gトレンチ　東壁セクション

Hトレンチ 掘削完了状況

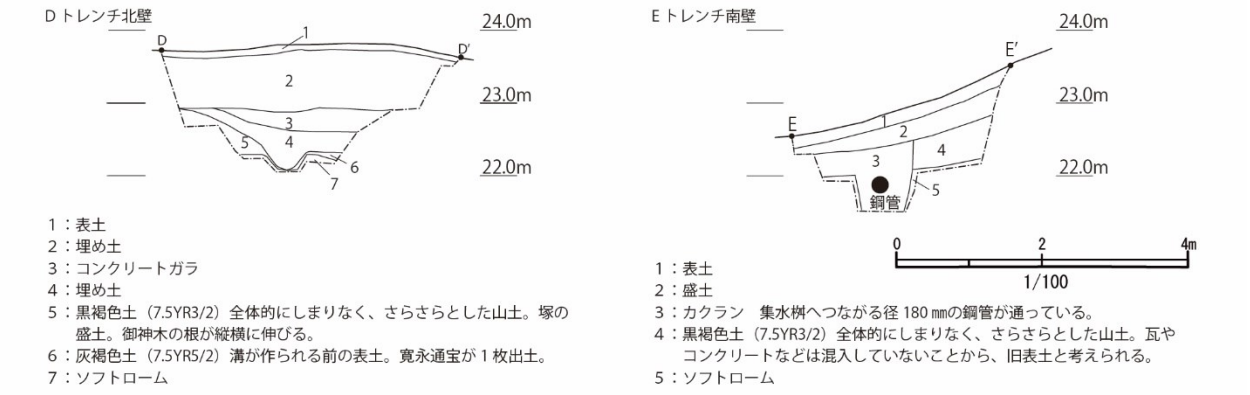


図 31:猪鼻城跡セクション図(D･Eトレンチ)

（３）出土遺物

土師器 5 点、陶器 1 点、寛永通宝 1 枚が出土している。この他に盛土の中から近世の瓦、千葉大学附属病院の薬瓶なども確認されている。

図 32:猪鼻城跡出土遺物

表 9:出土古銭観察表

No.	出土地点	銭貨名	初鋳年	王朝名	外径:縦	外径:横	外縁最大厚	重量
1	Dトレンチ	寛永通宝	1636	（日本）	24.49	24.50	1.04	2.4
					（㎜）	（㎜）	（㎜）	（g）

（４）調査結果

今回の調査では七天王塚 5 号塚の範囲と周辺の土地改変の様子を明らかにすることができた。

事業範囲南側の体育館と医薬系総合研究棟周辺は千葉大学亥鼻地区埋蔵文化財調査委員会が、第 4 次・第 5 次調査として 2009 年 12 月から 2010 年 3 月にかけて調査し、埋蔵文化財が広く分布していることが明らかであるため、今回は調査を見送った。同委員会により 2011 年 3 月に刊行された『猪鼻城跡 千葉大学医薬系鍵合研究棟建設に伴う発掘調査報告書』によると弥生時代後期から古墳時代中期にかけての集落跡、滑石工房、墓域などが報告されている。

事業は塚の保護範囲を外して行う。埋蔵文化財が確認されなかった西側の学生寮周辺や旧医学部本館周辺については慎重工事、塚の南側で千葉大学が未調査の箇所については本調査へ向けて調整を進めていく。

猪鼻城跡は千葉氏との関係も深い遺跡であるため、今後とも注意を払っていかなければならない。

8　松ケ丘南遺跡（まつ が おかみなみいせき）

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
8	松ケ丘南遺跡	確認調査	3千教埋セ第55号	2021年6月11日から6月16日	35㎡（1,297.43㎡）	木口 裕史
		市単費	中央区松ヶ丘町114番1,同番2,128番2	宅地造成	株式会社アイキョーホーム	

＊調査面積の下段（ ）内は事業面積

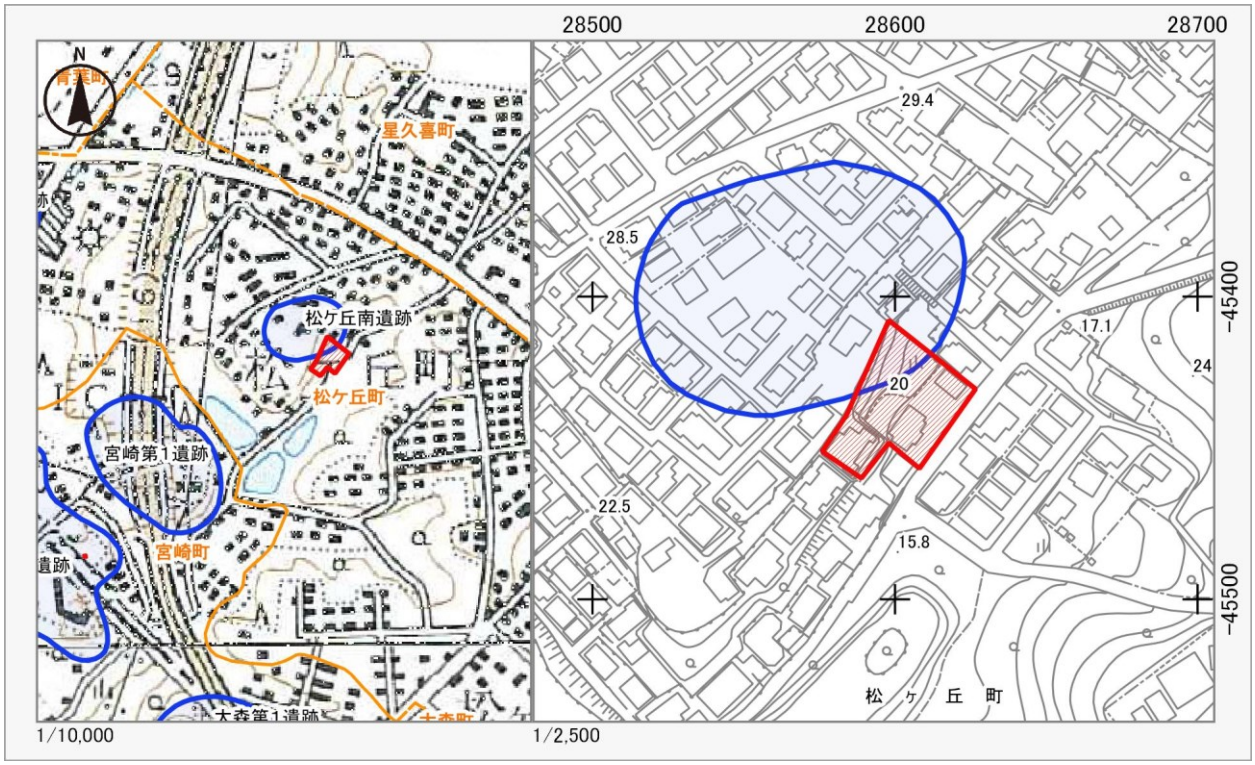


図 33：松ケ丘南遺跡位置図

（1）調査に至る経緯

令和 3 年 3 月 22 日付けで株式会社アイキョーホームより、宅地造成のための埋蔵文化財発掘調査の届出が事業面積 1,297.43 ㎡で提出された。対象地の北側の急傾斜地を松ケ丘南遺跡がかすめる。試掘調査を行ったところ、良好な堆積の包含層から縄文土器がまとまって出土した。

令和 3 年 6 月 8 日、工事着手前に確認調査を実施することで協議が整った。(3 千教埋セ第 106 号)

（2）調査概要

対象地は斜度 30 度以上の急傾斜地に位置し、通常の枡掘りが難しいため、斜面に直交する長いトレンチを 2 本設定した。

地表面は雑草が繁茂しており、表土は灌木や草類の根が縦横に走る黒色土、その下部に植物の撹乱が見られない黒色土が堆積、包含層は黒色土の下の暗褐色土層。

A トレンチで確認した基本層序としては黒色土、暗褐色土（包含層）、ローム層、固結した砂層、

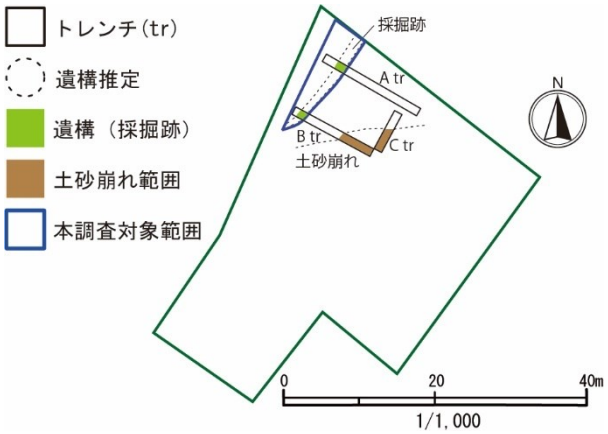
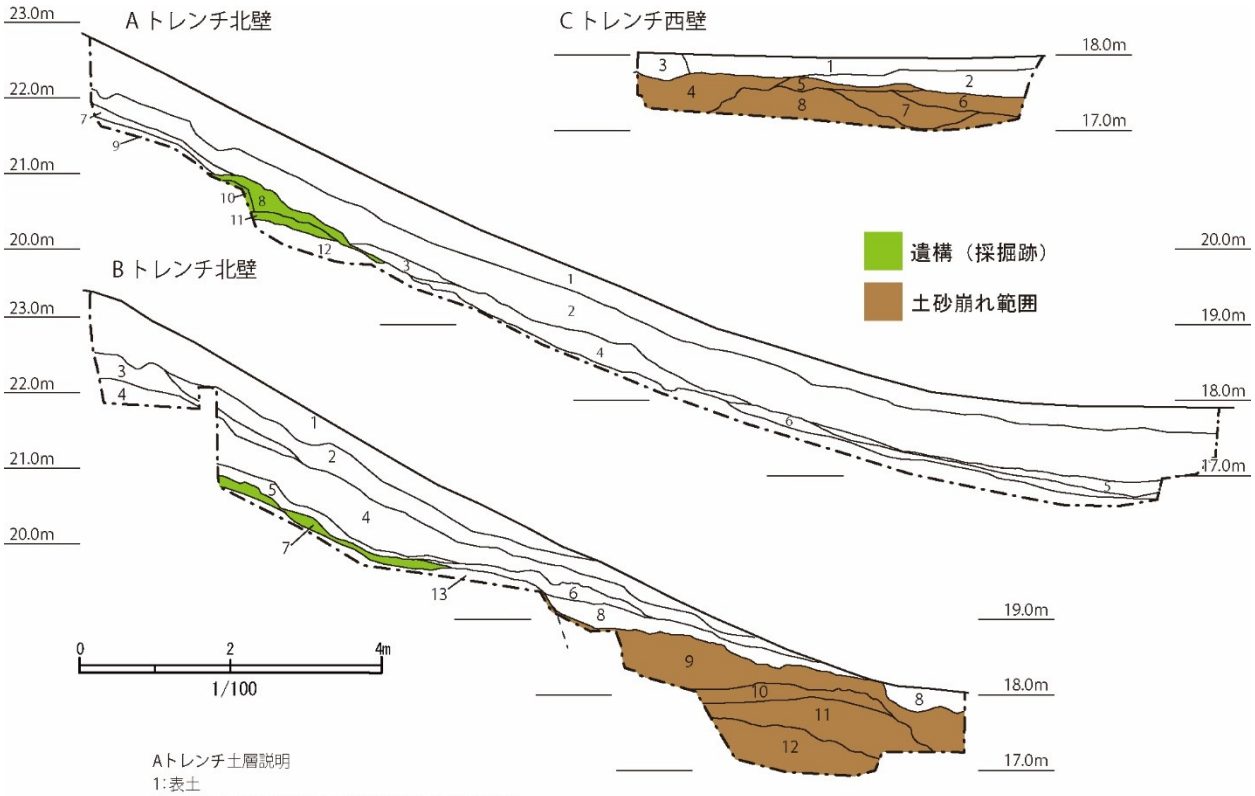


図 34：松ケ丘南遺跡遺構配置図

山砂層となっているが、Bトレンチの斜面下でローム層と粘土層が確認されている。これらは波打つように湾曲し、適度に混ざり合っていることから土砂崩れによる堆積と判断した。

さらに固結した砂層は、10 ㎝前後のブロックで斜面に転がり落ちるように堆積していること、拳大の礫が出土することなどから、ここで礫の採掘が行われていたと推測される。

土砂崩れの広がりを確認するためにCトレンチを設定した。



Aトレンチ土層説明
1:表土
2:黒褐色土(5YR2/1)植物の影響が少なく、しまりあり。
3:黒褐色土山砂混じり層(5YR2/1)水性堆積した12層の山砂が全体に混じる。含水した状態で踏み荒らされたものか。
4:黒褐色土(5YR2/1)と明黄褐色砂(10YR7/6)の撹拌層　含水した状態で踏み荒らされたものか。
5:暗赤褐色粘質土(5YR3/6)粘性強く、径２㎜ほどのローム粒散る。
6:暗赤褐色粘質土(5YR3/6)と明黄褐色砂(10YR7/6)の撹拌層　含水した状態で踏み荒らされたものか。
7:暗赤褐色土(2.5YR3/3)包含層。しまりなく、層の下部に縄文土器や礫が出土する。
8:黄色固結砂のブロックが暗赤褐色土に混じる。礫の採掘によってできた層。
9:赤褐色ハードローム(5YR4/6)
10:黄色固結砂(2.5Y7/8)堆積した砂がマンガンなどとともに固結し、こぶし大の礫などが混じる。
11:にぶい褐色土(7.5YR5/4)粘性強く、中間に黒色の砂が固結した層を挟む。
12:明黄褐色砂(10YR7/6)いわゆる山砂。しまりなく容易に掘削できる。

Bトレンチ土層説明
1:表土
2:黒褐色土(5YR2/1)ところどころに伐根した際の跡がみられる。元々栗の木が植わっていたとのこと。
3:暗赤褐色土(2.5YR3/3)包含層。しまりなく、層の下部に縄文土器や礫が出土する。
4:黒褐色土(5YR2/2)遺物や礫などを含まず、植物の根などの影響もない。
5:にぶい褐色土(7.5YR5/4)やや粘質あり、径20㎜ほどの黄色砂のブロックが混じる。
6:暗赤褐色粘質土(5YR3/6)と明黄褐色砂(10YR7/6)の撹拌層　含水した状態で踏み荒らされたものか。
7:黄色固結砂のブロックが暗赤褐色土に混じる。礫の採掘によってできた層。
8:灰褐色土(5YR4/2)粘質強く、径15㎜ほどの砂利が時折混じる。
9:黄橙色ソフトローム(7.5YR8/8)土砂崩れによって、滑ってきた層。ところどころに径15㎜ほどの砂利が混じる。
10:にぶい橙色粘質土(7.5YR6/4)含水のローム層。粘質強いが全体に砂が混じる。
11:にぶい赤褐色粘質土と白色粘土の崩落土層(5YR5/4)土砂崩れによって粘土層が波打つように堆積し、そこへ含水のローム層が堆積している。
12:にぶい赤褐色粘質土(5YR5/4)土砂崩れによって滑ってきた層に。径15㎜ほどの砂利が混じる。
13:明黄褐色砂(10YR7/6)いわゆる山砂。しまりなく容易に掘削できる。

Cトレンチ土層説明
1:表土
2:黒褐色土(5YR2/1)植物の影響が少なく、しまりあり。
3:灰褐色土(5YR4/2)粘質強く、径15㎜ほどの砂利が時折混じる。
4:黄橙色ソフトローム(7.5YR8/8)土砂崩れによって、滑ってきた層。ところどころに径15㎜ほどの砂利が混じる。
5:灰褐色土(7.5YR6/2)砂質やや強く、しまりあり。
6:暗赤褐色粘質土(5YR3/6)粘性強く、径２㎜ほどのローム粒散る。
7:黄褐色土(10YR5/6)山砂の二次堆積土。砂質強くしまりなし。
8:にぶい赤褐色粘質土(5YR5/4)土砂崩れによって滑ってきた層に。径15㎜ほどの砂利が混じる。

図 35:松ケ丘南遺跡セクション図

発掘調査風景

Ａトレンチ掘削状況

Ａトレンチ採掘跡

Ａトレンチ採掘跡礫出土状況

Ｂトレンチ掘削状況

Ｂトレンチ遺物出土状況

Ｂトレンチ土砂崩れの痕跡

Ｃトレンチ掘削状況

（3）出土遺物

縄文土器 45 点、礫 11 点が出土している。土器は加曽利 EⅢ式から加曽利 EⅣ式に比定される。礫のうち 10 ㎝を超えるものが採掘の痕跡が残る固結した砂層（自然堆積層）から出土している。（図 36 右側）

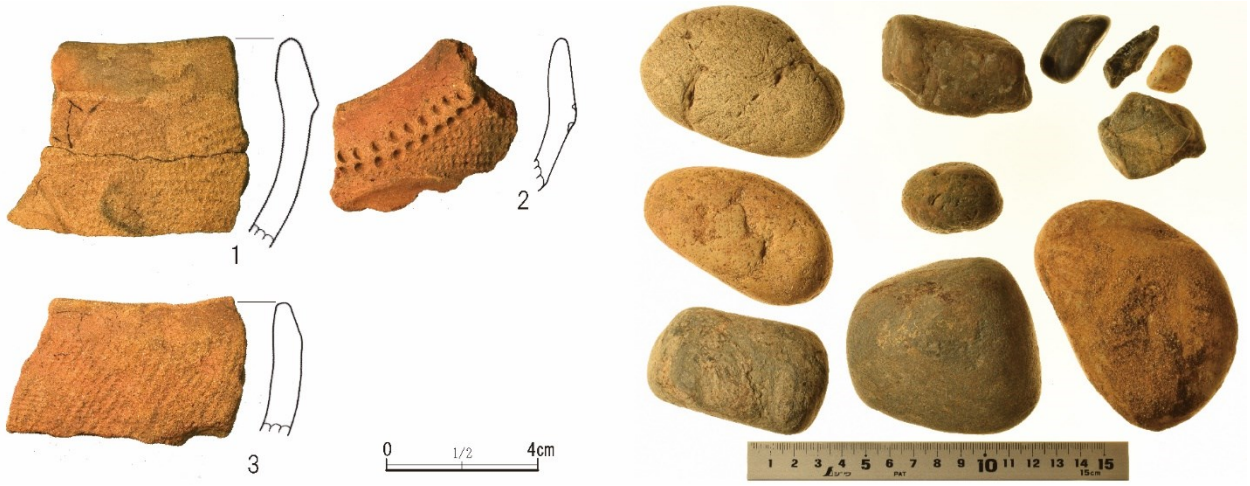


図 36:松ケ丘南遺跡出土遺物

表 10:遺物観察表

No.	時代	種別1	種別2	種別3	注記 出土地点	備考
1	縄文	土器	深鉢	加曽利EⅢ	BT3層下	横位連繋弧線文系。胴部LR＋沈線意匠文。口縁部無文、下端微隆起状
2	縄文	土器	深鉢	加曽利EⅢ	BT3層上	横位連繋弧線文系。胴部LR＋微隆起による意匠文。口縁部無文、下端微隆起状＋連続刺突
3	縄文	土器	深鉢	加曽利EⅢ	BT3層上	素文系。RL縦重畳施文、口縁ナデにより無文、稜をなさない

（4）調査結果

台地上の遺跡本体は戦後の早い段階で宅地造成が進んでいたため、これまでに発掘調査歴がなく、詳細は不明となっていたが、今回の確認調査で縄文時代中期後葉（加曽利 E 式後半）の遺跡であること、遺跡縁辺の露頭では粘土や礫の採掘をうかがわせる痕跡があることが判明した。

千葉市域では石器に用いるような石材の入手はできないと考えられてきたが、叩き石や擦り石などに利用される拳大の礫の入手が可能であることが確認された。当時の人々の生活圏での活動の一端を窺う上で非常に重要な発見であろう。

礫を含む固結した砂層は、事業地の 300m ほど北側を東西に走る東金街道沿いで行われた過去のボーリング調査においても、標高 21～22m 付近で確認されている。広範囲に分布していることが予想されることから、今後も注視していく必要があろう。

本調査が必要な範囲については擁壁を被せて保護し、現地保存することとなった。

固結した砂層のブロック

9　加曽利貝塚（かそりかいづか）

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
9	加曽利貝塚	確認・本調査	3千教埋セ第51号	2021年6月3日から6月7日	12.4㎡（131㎡）	松田 光太郎
		国庫補助	若葉区桜木三丁目269番17,同番19	個人住宅建設	ケイアイクラフト株式会社	

＊調査面積の下段（ ）内は事業面積

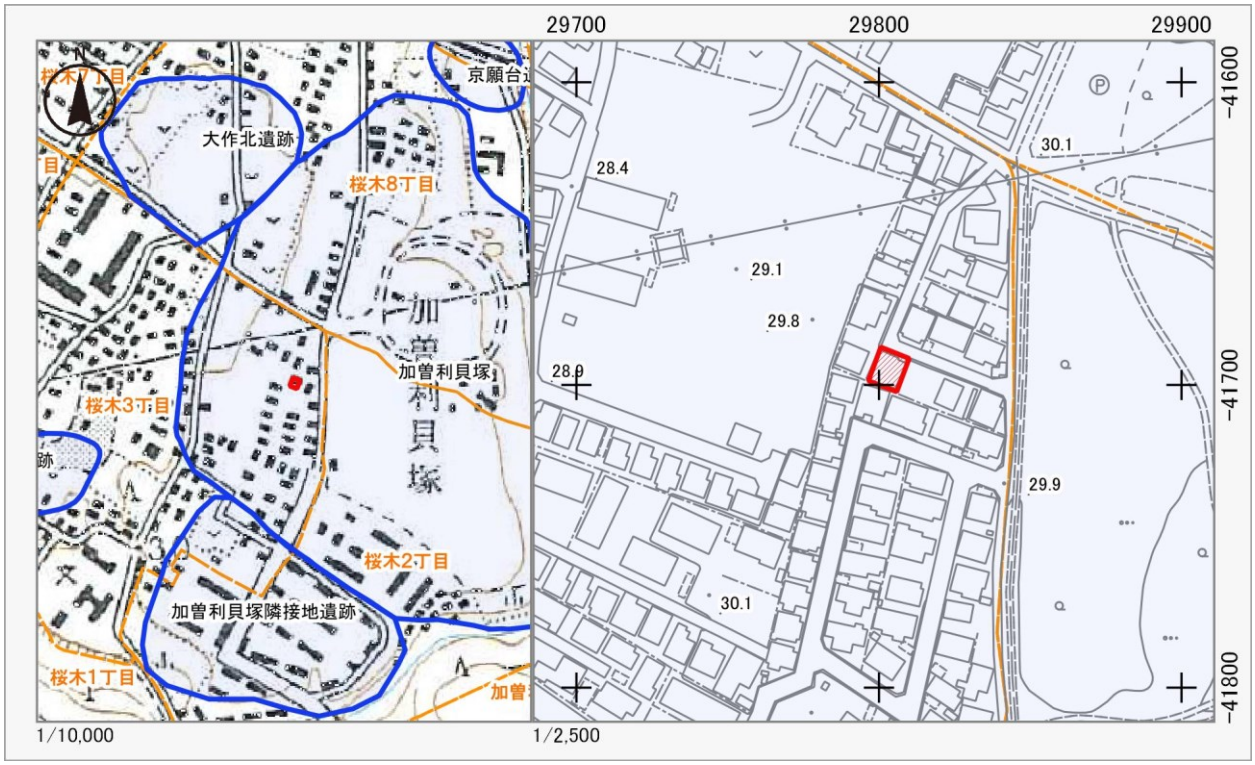


図 37:加曽利貝塚位置図

（1）調査に至る経緯

令和 3 年 4 月 22 日付けで、ケイアイクラフト株式会社を通じて、個人住宅建設のための埋蔵文化財発掘調査の届出（文化財保護法第 93 条に基づく届出）が、130.78 ㎡で提出された。5 月 17 日、試掘調査（遺構配置図 No. 1 トレンチ）を実施した結果、溝が 1 条検出された。

5 月 24 日、工事着手前の「発掘調査」指示を通知し（3 千教埋セ第 51 号）、確認調査を実施することで協議が整った。令和 3 年 5 月 27 日付けで、届出者より、埋蔵文化財発掘調査依頼書が提出され、6 月 3 日から確認・本調査を実施することとなった。

（2）調査概要

事業地 131 ㎡に対し、No. 2 ～ 4 の 3 か所のトレンチによる、総面積約 12.4 ㎡の確認調査を実施した。その結果 2 か所において遺構が確認された。確認遺構は柱穴 1 基、溝 1 条が検出された。出土遺物の時期や遺構の覆土・形状により、柱穴は縄文時代、溝は古墳時代の所産と考えられる。

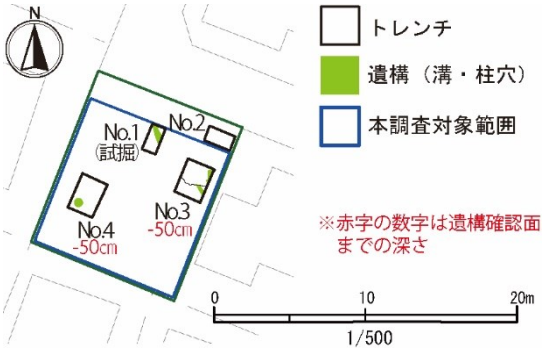


図 37:加曽利貝塚遺構配置図

発掘調査風景

No. 1 トレンチ掘削完了（試掘調査）

No. 3 トレンチ東壁

No. 4 トレンチ遺構検出状況

（3）出土遺物

縄文土器 2 点、土師器 1 点が出土。縄文土器は加曽利 E II 式から加曽利 EIII式に比定される。

（4）調査結果

本調査地点は特別史跡加曽利貝塚より西へ 40ｍの位置にある。本調査地点の周囲に実施した過去の試掘・確認調査では造成等により遺構が確認されないことが多いが、本調査地点は削平がされておらず、遺構の存在が確認された。調査の結果 102 ㎡が本調査対象となったが、本調査対象範囲は盛土により保護層の確保が可能であったため、本調査を行わず、住宅を建設することになった。

報 告 書 抄 録

ふりがな	まいぞうぶんかざいちょうさ(しないいせき)ほうこくしょ
書名	埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書
副書名	―令和3年度―
巻次	
シリーズ名	市内遺跡報告書
シリーズ番号	第34冊目
編著者名	木口裕史・小林 嵩・山下亮介・松田光太郎・西野雅人・岸本高充
編集機関	千葉市教育委員会
所在地	〒260-0814 千葉市中央区南生実町1210 TEL.043-266-5433
発行年月日	2022(令和4)年3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査種別	調査期間	調査面積	調査原因
	種別/主な時代/主な遺構					主な遺物		特記事項	
わかばくはらまち 根崎遺跡	若葉区原町922番24 の一部	12104	若葉区 -37	35° 38′ 5″	140° 8′ 35″	本調査	2020年5月11日～ 2020年6月1日	44㎡	個人住宅建設
	包蔵地・集落跡/古墳時代～奈良時代/竪穴住居跡 2軒					縄文土器、土師器、須恵器、鉄器、銅製品、石製品		本調査は影響範囲のみ。共同住宅分は千葉市教育振興財団が本調査	
わかばくたかねちょう 谷原前遺跡	若葉区高根町924番1 の一部	12104	若葉区 -391	35° 35' 46″	140° 13′ 11″	確認調査	2020年11月6日～ 2020年11月24日	36㎡	駐車場及び資材置き場の建設
	包蔵地/縄文時代/竪穴住居跡 15軒、土坑 37基					縄文土器、石器		盛土にて現状保存	
まつばらいせき 松原遺跡	中央区南生実町 1048,1050～52,1054,1057, 1091,1094,1097の各一部	12104	中央区 -132	35° 33' 22″	140° 9' 11″	確認調査	2020年12月17日～ 2020年12月24日	81.6㎡	宅地造成
	包蔵地・集落跡/古墳時代/竪穴住居跡 4軒					縄文土器、土師器、須恵器、鉄器			
	ちゅうおうくみなみおゆみちょう 中央区南生実町1087	12104	中央区 -132	35° 33' 22″	140° 9' 11″	確認調査	2021年3月16日～ 2021年3月26日	115㎡	宅地造成
	包蔵地・集落跡/古墳時代/竪穴住居跡 14軒					縄文土器、土師器、須恵器、石器			
きじかいづか 築地貝塚	はなみがわくちょうさくちょう 花見川区長作町296番	12104	花見川区 -30	35° 40' 41″	140° 4' 12″	確認調査	2021年2月8日～ 2021年2月10日	30㎡	戸建専用住宅建設および宅地造成
	貝塚/縄文時代/土坑3基、柱穴1基					縄文土器		2021年度に本調査を実施	
にしがわいせき 西側遺跡	ちゅうおうくそがいちちょうめ 中央区蘇我一丁目 13番9	12104	中央区 -144	35° 35′ 46″	140° 13′ 11″	確認調査	2021年4月16日～ 2021年5月6日	21.35㎡	宅地造成
	集落跡、墓域/中世、近世/墓壙 2基					土師器、陶器、土器、古銭、人骨		盛土にて現状保存	
いのはなじょうあと 猪鼻城跡	ちゅうおうくいのはないちちょうめ 中央区亥鼻一丁目 64-1,64-5,322の各一部	12104	中央区 -23	35° 36' 14″	140° 7' 48″	確認調査	2021年5月26日～ 6月10日、 8月10日～8月11日	268㎡	学校建設
	城館跡、集落跡/中世、近世/塚、溝 2条					土師器、古銭、近世陶器、近代磁器、薬瓶		七天王塚5号塚の範囲は現状保存	
まつがおかみなみいせき 松ケ丘南遺跡	ちゅうおうくまつがおかちょう 中央区松ケ丘町 114番1,同番2,128番2	12104	中央区 -44	35° 35' 25″	140° 8' 55″	確認調査	2021年6月11日～ 2021年6月16日	35㎡	宅地造成
	包蔵地/縄文時代/採掘跡					縄文土器、礫		影響範囲は擁壁下部で現状保存	
かそりかいづか 加曽利貝塚	わかばくさくらぎんちょうめ 若葉区桜木三丁目 269番17、同番19	12104	若葉区 -104	35° 37' 25″	140° 9' 51″	確認・ 本調査	2021年6月3日～ 2021年6月7日	12.4㎡	個人住宅建設
	貝塚・集落跡/縄文時代、古墳時代/柱穴 1基、溝状遺構 1条					縄文土器		盛土にて現状保存	

埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書

－令和３年度－

発　行　日　2022（令和4）年３月25日

発　　行　千葉市教育委員会

〒260-8730千葉市中央区問屋町1番35号

千葉ポートサイドタワー11階

電話 043-245-5962 （生涯学習部文化財課）

印　　刷　株式会社ニッセイアド

〒264-0026千葉市若葉区西都賀四丁目18番3

電話 043-206-7752